

学校安全総合支援事業（文部科学省委託事業）

令和4年度学校防災アドバイザー派遣事業
報告書

令和5年2月 香川県教育委員会

はじめに

我が国は、近い将来に発生が懸念されています南海トラフ巨大地震、激甚化・頻発化する豪雨、台風などの計り知れない自然災害のリスクに直面しています。また、学校における活動中の事故や登下校中における事故・事件、SNSの利用による犯罪など子どもたちの安全を脅かす様々な事案も次々と顕在化しています。

このような中、学校は、児童生徒等が生き生きと活動し、安心して学べるようにするために、児童生徒等の安全の確保が保障されることが大切です。本報告書により、改めて学校における安全、安心とは何か、児童生徒等が安全、安心に生活できる学校とはどのようなものなのかを問い直すきっかけになれば幸いです。

香川県教育委員会では、平成24年度から、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する本事業の推進委員会を設置し、各学校（園）等の防災体制整備や防災教育のさらなる充実に向けた取組みについて検討してきました。また、希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、要望に応じて危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言、地域と学校との連携体制への助言等を実施してきました。このアドバイザーとして、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、高松地方気象台の皆様方に御協力をいただいております。

本報告書は、今年度に本事業を活用した29校（園）の取組みや、災害時の支援活動に貢献できる力を身に付けるための防災教育の取組みをまとめたもので、ここには、学校（園）における防災体制整備や防災教育に向けた貴重な情報が盛り込まれています。各学校（園）におかれましては、それぞれの実態に応じて本書をご活用いただき、各学校（園）の取組みの一助としていただきますようお願いいたします。

また、今年度は県内公立高校生を対象に、「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成研修」を3年ぶりに開催することができました。この研修会は、夏休み期間中に香川大学と連携して、災害時のボランティア活動に関する基本的な理解を深めるとともに、防災体験や救護体験等を通して、災害時ボランティアリーダーの養成や支援者としての視点を身に付けることを目的に実施しています。

結びに、本報告書の作成にあたり貴重な実践資料を御提供いただきました学校（園）、本事業の推進に御尽力いただきました推進委員会、学校防災アドバイザー、関係機関、関係団体、教育委員会の皆様方に心から御礼を申し上げます。

令和5年2月

香川県教育委員会事務局
保健体育課長 宮滝 寛己

目 次

I 令和4年度 学校防災アドバイザー派遣事業

1	学校防災アドバイザー派遣事業とは	1
2	令和4年度学校防災アドバイザー派遣計画表	2
3	令和4年度学校防災アドバイザー派遣事業の経緯	4
4	令和4年度本事業の成果と課題	7

II 各学校（園）の取組み

1 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言

○	さぬき市立さぬき北小学校	13
○	東かがわ市立大内こども園	15
○	学校法人花岡学園認定こども園坂出一高幼稚園	17
○	高松市立香南中学校	18
○	観音寺市立大野原中学校	23
○	高松市立香川第一中学校	24
○	高松市立木太幼稚園	26
○	香川県立高松養護学校	28
○	高松市立勝賀中学校	30
○	綾川町立羽床小学校	32
○	三豊市立高瀬中学校	33
○	坂出市立坂出中央幼稚園	34
○	丸亀市立本島中学校・本島小学校	36
○	丸亀市立城東幼稚園	37
○	学校法人百華学園太田百華幼稚園	39

2 様々な想定や地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練への助言

○	三豊市立詫間中学校	41
○	琴平町立象郷小学校	44
○	認定こども園香川短期大学附属幼稚園	46
○	高松市立川東小学校	50
○	高松市立木太南小学校	51
○	丸亀市立本島中学校・本島小学校	53
○	香川県立高松養護学校	54
○	観音寺市立一ノ谷小学校	59
○	学校法人高松聖母被昇天学院マリア幼稚園	62
○	観音寺市立大野原中学校	63

3 防災マップ作りや災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言

○ さぬき市立寒川小学校	67
○ 高松市立大野小学校	70
○ 坂出市立東部小学校	71
○ 高松市立古高松南小学校	75
○ 高松市立弦打小学校	78
○ 香川県立多度津高等学校	82
○ 高松市立香西小学校	84

関係資料

I 令和4年度 学校防災アドバイザー派遣事業

1 学校防災アドバイザー派遣事業とは

(1) 本事業の趣旨

我が国は、近い将来に発生が懸念されている首都直下地震や南海トラフ巨大地震、激甚化・頻発化する豪雨、台風などの計り知れない自然災害のリスクに直面している。このような中、各学校（園）においては、児童生徒等が生き生きと活動し、安心して学べるようにするためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが重要である。また、児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を継続的に身に付け、自ら進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるようになることが求められる。

そこで、本事業は希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルの見直しや地域や関係課と連携した防災教育、より実効性のある避難訓練等に対する助言を行い、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

(2) 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する専門家を学校（園）に派遣し、各学校（園）等の要望に応じた助言等を行い、防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図る。

① 主な派遣講師

- ・ 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員
- ・ 日本技術士会四国本部所属技術士
- ・ 香川県防災士会所属防災士
- ・ 高松地方気象台職員

② 主な助言内容

- ・ 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
- ・ 様々な想定や地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
- ・ 防災マップ作りや災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
- ・ その他（本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談）

2 令和4年度学校防災アドバイザー派遣計画表

No.	実施月日	所在地	学校(園)等名	校種	派遣アドバイザー*	事業内容
1	6月22日	さぬき市	さぬき市立寒川小学校	小	大学1名、防災1名	③防災学習への助言
2	6月24日	三豊市	三豊市立詫間中学校	中	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
3	6月28日	さぬき市	さぬき市立さぬき北小学校	小	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
4	7月5日	東かがわ市	東かがわ市立大内こども園	こ	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
5	7月20日	坂出市	学校法人花岡学園認定こども園坂出一高幼稚園	幼	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
6	7月25日	高松市	高松市立木太南小学校	小	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
7	7月26日	観音寺市	観音寺市立大野原中学校	中	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
8	7月26日	高松市	高松市立香南中学校	中	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
9	8月1日	高松市	高松市立香川第一中学校	中	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
10	8月3日	高松市	高松市立木太幼稚園	幼	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
11	8月22日	高松市	高松市立勝賀中学校	中	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
12	8月23日	綾川町	綾川町立羽床小学校	小	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
13	8月23日	高松市	香川県立高松養護学校	特支	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
14	8月24日	三豊市	三豊市立高瀬中学校	中	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
15	8月25日	坂出市	坂出市立坂出中央幼稚園	幼	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
16	8月30日	丸亀市	丸亀市立本島小学校・本島中学校	小中	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
17	9月1日	琴平町	琴平町立象郷小学校	小	技術1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
18	9月1日	宇多津町	認定こども園香川短期大学附属幼稚園	幼	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
19	9月2日	丸亀市	丸亀市立城東幼稚園	幼	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
20	9月7日	高松市	高松市立川東小学校	小	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
21	9月7日	東かがわ市	東かがわ市立大内こども園	こ	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言

※大学…香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員、技術…日本技術士会四国本部所属技術士、防災…香川県防災士会所属防災士、気象…高松地方気象台職員

()はR4年度の複数の派遣実施回数

No.	実施月日	所在地	学校(園)等名	校種	派遣アドバイザー*	事業内容
22	9月8日	高松市	学校法人高松聖母被昇天学院マリア幼稚園	幼	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言
23	9月9日	高松市	高松市立香西小学校	小	技術1名、防災1名	③防災学習への助言
24	9月15日	高松市	高松市立大野小学校	小	大学1名、防災1名	③防災学習への助言
25	9月16日	高松市	高松市立木太南小学校(2)	小	技術1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
26	9月20日	坂出市	坂出市立東部小学校	小	大学2名、防災1名	③防災学習への助言
27	9月21日	丸亀市	丸亀市立本島小学校・本島中学校(2)	小中	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
28	9月22日	高松市	高松市立古高松南小学校	小	技術1名、防災1名	③防災学習への助言
29	9月26日	高松市	高松市立弦打小学校	小	大学1名、防災1名	③防災学習への助言
30	9月28日	琴平町	琴平町立象郷小学校(2)	小	技術1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
31	10月7日	多度津町	香川県立多度津高等学校	高	技術1名、防災1名	③防災学習への助言
32	10月17日	坂出市	坂出市立東部小学校(2)	小	大学2名、防災1名	③防災学習への助言
33	10月21日	さぬき市	さぬき市立寒川小学校(2)	小	大学1名、防災1名	③防災学習への助言
34	10月27日	高松市	香川県立高松養護学校(2)	特支	技術1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
35	11月2日	観音寺市	観音寺市立一ノ谷小学校	小	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
36	11月14日	宇多津町	認定こども園香川短期大学附属幼稚園(2)	幼	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
37	11月14日	高松市	高松市立弦打小学校(2)	小	大学1名、防災1名 気象2名	③防災学習への助言
38	11月25日	高松市	学校法人高松聖母被昇天学院マリア幼稚園(2)	幼	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
39	11月25日	高松市	高松市立香西小学校(2)	小	技術1名、防災1名	③防災学習への助言
40	11月28日	観音寺市	観音寺市立大野原中学校(2)	中	大学1名、防災1名	②実効性のある避難訓練への助言
41	11月30日	高松市	学校法人百華学園太田百華幼稚園	幼	大学1名、防災1名	①危機管理マニュアル等への助言

※大学…香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員、技術…日本技術士会四国本部所属技術士、防災…香川県防災士会所属防災士、気象…高松地方気象台職員

3 令和4年度学校防災アドバイザー派遣事業の経緯

○学校安全総合支援事業（文部科学省委託要項から抜粋）

- 学校種・地域の特性に応じた学校安全推進体制の構築を図るため、下記の事業を実施する。
- (1) モデル地域を設定し、学校安全の推進体制を県内に普及するための支援事業の実施
 - (2) モデル地域の拠点校を中心に地域学校間で連携し、各校中核教員を通じて、各学校の取組み等を共有する事業の実施
 - (3) 学校安全計画の改善、見直しなど、学校安全の取組みの推進・支援事業の実施

○学校防災アドバイザー派遣事業（文部科学省委託事業を受け、平成24年度から実施）

外部の専門家を学校防災アドバイザーとして学校に派遣し、学校間・地域住民・保護者・関係機関との連携強化や危険等発生時対処要領等の作成・検証に関する指導・助言などを行い、組織的な学校の安全管理体制の構築・強化を行うことにより、学校を含めた地域全体としての安全水準の向上を図る。

(1) 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会

① 推進委員会第1回会議

- 日時 令和4年6月8日（水）15:00～16:30
- 会場 オンライン開催
- 内容
 - 1) 委員紹介
 - 2) 事業説明
 - 3) 委員長、副委員長選出
 - 4) 協議内容
 - ・ 令和4年度学校防災アドバイザー派遣事業内容について
 - ・ 令和4年度の派遣学校（園）について
 - ・ 各学校（園）等における防災体制の整備及び防災教育の充実に向けて
 - 5) 意見交換

② 推進委員会第2回会議

- 日時 令和5年1月25日（水）15:00～16:30
- 会場 香川県社会福祉総合センター6階研修室（ハイブリッド開催）
- 内容
 - 1) 協議内容
 - ・ 令和4年度学校防災アドバイザー派遣事業報告
 - ・ 今年度の成果と課題
 - 2) 意見交換



【第2回会議の様子】

③ 推進委員

No.	氏 名	所 属
1	長谷川 修一	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
2	白木 渡	香川県防災士会 会長
3	細谷 芳照	日本技術士会四国本部 相談役
4	三谷 一秀	香川県危機管理総局危機管理課 課長
5	長尾 剛司	高松市消防局 次長
6	田嶋 三枝	善通寺市立竜川幼稚園 園長（香川県国公立幼稚園・こども園長会）
7	溝内 哲也	高松市立多肥小学校 校長（香川県小学校長会）
8	大谷 伸一	善通寺市立西中学校 校長（香川県中学校長会）
9	塩田 浩之	香川県立三木高等学校 校長（香川県高等学校長協会）
10	北村 宏美	香川県立高松養護学校 校長（香川県特別支援学校長会）
11	西城 伸二	香川県PTA連絡協議会 副会長
12	淀谷 茂	高松市教育委員会事務局保健体育課 指導主事
13	安藤 紳一	三豊市教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事
14	森江 克典	琴平町教育委員会事務局生涯教育課 主任指導主事
15	谷本 佐織	香川県教育委員会事務局東部教育事務所 主任指導主事
16	北村 篤子	香川県教育委員会事務局西部教育事務所 主任指導主事
17	宮滝 寛己	香川県教育委員会事務局保健体育課 課長

（２）学校防災アドバイザー事前打合せ会

日 時 令和４年６月９日（木） オンライン開催

参加者 学校防災アドバイザー 約５０名

主な内容

- 1) 学校防災アドバイザー派遣事業について
- 2) 派遣計画等について
- 3) 実施方針、助言内容について
- 4) その他、意見交換

(3) 高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会

□ 日 時 令和4年7月21日(木) 13:20~16:30

□ 会 場 香川大学創造工学部

□ 参加者 県内公立高校生 9名 教員 4名

□ 主な内容

1) オリエンテーション

2) 実習Ⅰ「災害発生、その時キミたちは？」

講師 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 金田 義行 氏

3) 実習Ⅱ「訓練システムの体験(地震発生時の避難行動)」

講師 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 井面 仁志 氏

高橋 亨輔 氏

高橋 真里 氏

4) 情報交換「災害時に自分たちは何ができるのか？」



【訓練システム体験の様子】



【講習会の様子】

【参加生徒の感想】

- 災害時に自分たちができることとして、地域の災害リスクを把握しておくことや、スマホやラジオ等の情報源をもって避難すること等ができる自分たちの班は考えた。しかし、他の班の人たちの意見で、食料や水などを持って出ることや、家族の人の安全確認、また周りの人にできることとして、瓦礫を除けたり、大声で知らせたりする等ができると思った。
- 実習Ⅱでは、先生役としてシステムを体験し、今までにない活動だったのでとても楽しく、勉強になりました。
- 実際の訓練システムを体験して、危険はすぐそこにあると感じ、怖さを知りました。災害は次から次へとやってくるし、いつやってくるかも分からないから正しい情報を適切に見抜いて、しっかりと対策していきたい。
- 同年代の人たちの災害に対するいろいろな考えを知ることができ、ここに来てよかったと思いました。日頃から、身の周りの道などを歩きながら知ろうと思いました。

4 令和4年度本事業の成果と課題

(1) 活用状況

○派遣校（園）回数 29校（園） 41回

○29校（園）の内訳

- ・幼稚園：7園
- ・こども園：1園
- ・小学校：13校
- ・中学校：6校
- ・高等学校：1校
- ・特別支援学校：1校

(2) 各学校（園）の具体的な成果

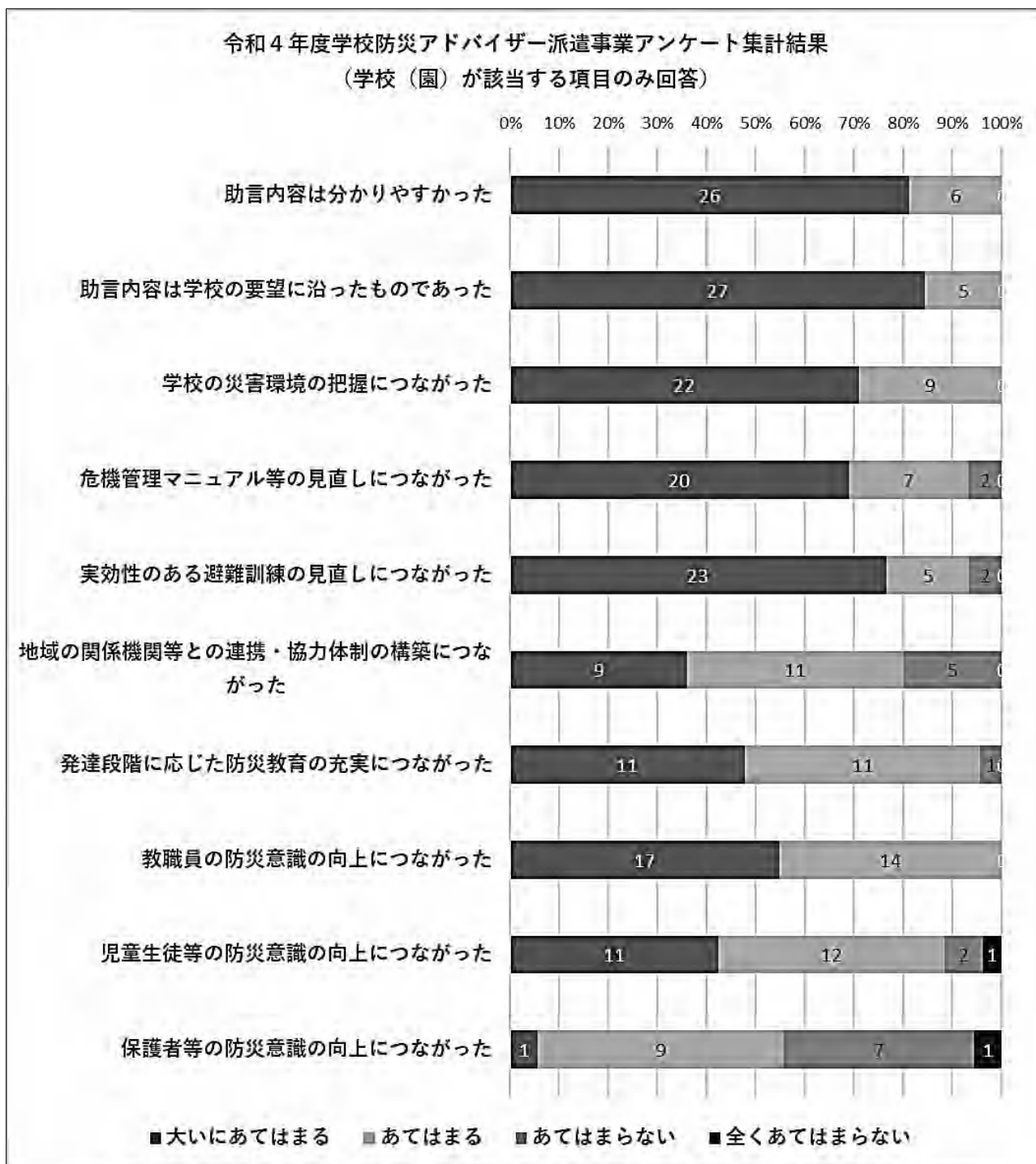


図1 アンケート調査結果一覧

事業後の各学校のアンケート調査結果（図1）を踏まえ、今年度、各学校（園）における成果として、次の3点があげられる。

- ・ 学校（園）等の災害環境の把握
- ・ 危機管理マニュアル等の見直し
- ・ 実効性のある避難訓練の見直し

各学校の立地状況、または校舎等の状況については、専門家の視点でないとなかなか気づくことができない部分も多くある。今年度の事業において、アドバイザーが、各学校の地域のハザードマップを用いて、どのようなリスクがあるかを分かりやすく丁寧に説明することが多くあった。また、校（園）内を一緒に歩きながら、校内の危険箇所や起こり得るリスク等の指摘を受けた。これらの助言は、各学校の危機管理マニュアル等の重要性を改めて認識するものとなったとともに、危機管理マニュアル等の見直しの視点にもなった（図2）。

○学校（園）等の災害環境の把握について

- ・ 学校が危険な立地であることを教職員で共通理解することができた。学校が考えていた避難経路については、必ずしも安全な経路ではないことが分かった。複数の経路を事前に考えておくとともに、どのような基準で経路を判断するかも、事前に教職員間で共有する必要があることが分かった。
- ・ 施設面での不備や備品管理的な問題点を指摘していただいた。施設面については、市町教育委員会に報告した。備品管理面では教職員と共通理解を図り、配置換え等を行い、減災に向けて取り組むことができた。
- ・ 昨年度、本事業に市の防災担当課も参加していただいたことで、校内の危険箇所の改善が進んだ。今年度も協議も同様に参加していただいたため、対策等について共有することができた。
- ・ 地域の危険箇所や災害特性について、丁寧に教えていただき、教職員で共有することができた。保護者にも発信していく必要性を感じた。

○危機管理マニュアル等の見直しについて

- ・ 災害時の行動について、分かりやすい示し方（チャート等）を教えていただき、本校のマニュアルの改善にとっても役に立った。
- ・ アドバイザーの話を聞いた後、教職員全員でマニュアルの見直し作業を行ったことがとてもよい活動になった。
- ・ 危機管理マニュアルについては、見直しの必要性は感じていたが、なかなか手をつけられずにいたのが実際のところである。今回の事業活用をきっかけに見直しを行うことができてよかった。また適切なアドバイスをいただいたおかげで、様々な状況に対応できるものになったと感じている。

○実効性のある避難訓練の見直しについて

- ・ 実際の避難訓練を見ていただいたあと、次年度に向けての改善点を具体的にアドバイスいただいた。実際の災害を想定すると、これまで行っていた訓練では不十分どころがいくつかあることが分かった。
- ・ 避難訓練について、教職員全員で見直しを行ったことは、教職員の防災意識を高める機会となっただけでなく、避難等について共有することができた。

図2 各学校（園）における具体的な成果（アンケートから一部抜粋）

(3) 本事業の特色ある活用事例

① 危機管理マニュアル等の見直し

高松市立香南中学校

教員の校内研修に本事業を活用し、校区の災害リスクについてアドバイザーから学んだ。その後、危機管理マニュアルについてアドバイザーから助言を受け、様々な状況を想定し、避難行動の判断基準について確認し、修正した。

2つめの活動として、次回の避難訓練について、全教員（グループ）で見直しを行った。実際の大地震を想定し、校区及び校内で想定される状況を考え、実効性のある訓練を自分たちで考え、意見交換を行った。自分たちで実際に考えることで、各教員の役割を明確にすること、状況に応じて臨機応変に対応するが、そこまで想定して役割を事前に確認しておくことの重要性を再認識した。

実際に避難訓練を実施したが、そこでは新たに課題が見つかり、改めて訓練の大切さを共有することができた。



【防災アドバイザーによる研修会】



【安全な避難経路で避難する様子】

高松市立木太幼稚園・高松市立木太南小学校

木太南小学校は今年度2回、本事業を活用し、1回目を危機管理マニュアルの見直し、避難訓練への助言を行った。その際、校区内にある木太幼稚園関係者も参加し、校区の災害リスクを共有し、幼稚園の危機管理マニュアルの見直しへとつなげた。

その後、木太幼稚園において本事業を実施し、職員研修として全職員と校区の災害リスクについて共有を行い、災害が起こった場合の職員等の対応について、アドバイザーと熱心な意見交換が行われた。

それぞれの危機管理マニュアル、避難訓練計画の見直しを行った後、幼稚園と小学校で地震・津波を想定した避難訓練を実施した。事前に研修を行ったこともあり、スムーズな避難行動につなげることができた。

- ・木太南小学校への避難経路の危険性が高い（高架下、橋、川の傍を歩く等）。
- ・木太南小学校は地域の避難所になっている。校区外の避難者も受け入れる。
- ・木太南小学校の児童の引き渡しも同時に行われる。
- ・木太南幼稚園の保護者は、木太南小学校に行ったことがない人もいる。

等

【研修後の幼稚園確認事項】



【幼小合同避難訓練の様子】

② 実効性のある避難訓練

香川県立高松養護学校

高松養護学校は、継続的に本事業を活用し、その都度危機管理マニュアル、避難訓練計画等の見直しを行っている。危機管理マニュアルについては、各教職員の役割が明確に示され、状況に応じた対応、判断基準も示されている。災害発生時の行動についても、チャート等で分かりやすく示されている。

避難訓練については、事前に教職員でそれぞれの行動・対応等を確認した後、訓練の時刻は周知せずに実施した。震度6弱の地震発生、停電及び火災が起きるという想定で実施した。実際を想定した2分間の揺れ、放送機器は使えない、防煙シャッターを閉じるという状況をつくり訓練を行った。速やかな本部の設置（確認用のホワイトボードの設置）、救護場所の設置、ハンドマイクの使用及び各職員の大きな声での



【避難訓練の様子】

伝達等、緊張感のある訓練となった。

訓練後に教職員で振り返りを行ったが、情報の伝え方、情報伝達の優先順位、救護場所の設置場所等、課題が明らかになった。今年度明らかになった課題については、すぐに危機管理マニュアルや避難訓練計画等へ反映し、次回の訓練に生かすことができるようにした。

③ 地域や関係機関等と連携した防災教育

高松市立香西小学校

香西小学校は、小学校6年生の防災学習に本事業を活用した。香西小学校では、地震や津波のメカニズムについての学習、地域の災害状況についての学習を行った後、フィールドワークを行い、地域や全校生に分かりやすい防災マップ作りを行った。

アドバイザーから災害の具体的な内容だけでなく、フィールドワークを行う際のチェックポイント等、専門家の視点からアドバイスを受けた。

児童が作成した防災マップについても、アドバイザーと意見交換を行いながら、見る人が分かりやすいマップになるよう何度も修正を行った。

児童は、自分たちが住んでいる地域を歩きながら、気づき、考えることで、自分事として学習に取り組むことができた。



【まち歩きの様子】



【地図にまとめる様子】

(4) その他の成果

① 事業活用数の増加

平成24年度から始まった本事業は11年が経過し、次のステップに進む時期でもある。表1は、本事業を活用した学校(園)数である。活用校数は減少傾向にあったが、今年度は各市町の協力もあり、多くの学校(園)が活用した。今後は、各学校(園)の取組み等を発信することはもちろんであるが、本事業をきっかけに校区内の連携、校種を越えた連携の強化に努めたい。

表1 学校防災アドバイザー派遣事業活用校数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
活用校数	53	40	38	21	23	25	24	23	17	17	29
幼こ	16	9	10	4	4	6	8	7	4	6	8
小	22	23	18	10	10	10	7	5	6	9	13
中	3	3	1	3	2	2	0	1	2	1	6
高	5	3	5	3	5	3	4	5	1	1	1
特支	7	1	3	1	1	3	3	4	1	0	1

② 各学校(園)の危機管理マニュアル等の見直しについて

今年度の成果として、本事業を活用することで改めて学校(園)等の災害環境を把握することができた。これは本事業の意義や有効性を表すものであるが、各学校(園)における危機管理の上で、この部分は極めて重要である。各学校の危機管理マニュアル等は、一度作成して終わりではなく、教職員間で共有し、実践できるものでなければならない。さらには、専門家や地域の視点から見直していくことが求められる。今後は本事業で見直しを行った学校(園)の危機管理マニュアル等を、各学校(園)が参考にできるように進めたい。

(5) 今後の課題について

① 本事業の取組み成果の普及について

本事業報告書は県内すべての学校(園)及び関係機関等へ配付するとともに、保健体育課ホームページへの掲載や研修会等における取組み照会を通して、成果の普及に努めていく。また、県下の防災担当が集まる防災教室講習会(8月)で、地域と連携した防災教育や体制ができている学校の発表や本事業における好事例の紹介などを積極的に行う。

② 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見

- ・ 同地域の横の連携(幼、小、中)が図られるよう、本事業を有効に活用してもらいたい。災害が起こった時には、地域内で同時に引渡し等が行われる、地域内で危機管理マニュアル等の共有を図りたい。
- ・ 各市町の教育委員会や危機管理担当課が本事業に積極的に関わられるようにしたい。
- ・ 本事業の成果や事業実施した学校(園)の好事例を積極的に発信したい。
- ・ 危機管理マニュアルの見直しを多くの学校(園)が行ったことは非常に素晴らしい。本事業実施後、どのようにマニュアルが改善されたかを確認することも必要では。

防災の専門家

を派遣します

学校防災アドバイザー派遣事業とは

防災の専門家を学校防災アドバイザーとして学校(園)に派遣し、避難訓練や防災教育、危機管理マニュアルの見直し等、各学校(園)のニーズに応じた助言を行い、学校安全の連携体制の構築や防災教育の充実を目指しています。

【派遣する専門家】

- ・香川大学危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員
- ・香川県防災士会所属防災士
- ・日本技術士会四国本部・香川県技術士会所属技術士
- ・高松地方気象台職員

2021年度の成果

活用した学校(園)の声

- 大雨や地震の時に、校区がどのような状況になるのか教えていただき、とても参考になった。
- 危機管理マニュアルのフローチャートが実際の場面に即していないことが分かり、早急に見直すことができました。
- 本校の避難訓練は見直した方がいいとは思っていたが、これまでなかなかできなかった。アドバイザー事業をきっかけにして、教員みんなで避難訓練の在り方について考え直すことができました。
- 市役所の方や地区の社会福祉協議会が参加してくださり、防災について、私たちも初めて気付いたり、改めて考え直さないといけないことがあることが分かった。

令和3年度学校防災
アドバイザー派遣事業報告書



アドバイザーと一緒に防災マップ作り



建物の倒壊を想定した避難訓練の実施

様々な災害に備えて、
“今”見直しを!

香川県教育委員会事務局保健体育課

II

各学校（園）の取組み

- 1 学校防災計画や危機管理マニュアル等への
助言

学校（園）名	さぬき市立さぬき北小学校
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し、避難訓練（洪水）計画への助言
日時	令和4年6月28日（火）15：40～17：00
場所	さぬき市立さぬき北小学校 会議室
参加者	教職員 4名（校長、教頭、教務、生徒指導主事） さぬき市立さぬき北幼稚園職員 1名 さぬき市鴨部地区自主防災会会長 1名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	15：40～17：00 ・危機管理マニュアルの評価・見直し（60分程度） ・避難訓練（洪水）計画への助言（20分程度）

1 取組における成果

【事前活動】

- ① 危機管理マニュアルの見直し
- ② 避難訓練（洪水）計画の作成

【中心活動】

- ① 現在の危機管理マニュアルが、本校が立地する環境における災害リスクに対応するものになっているか、災害を考える際の地形の特徴、地質の特徴をもとにした防災上の指導、助言、評価をしていただき、見直しのポイントについて助言していただいた。

- ・ 津波と洪水ではシチュエーションが異なるので、分けて考える必要がある。逃げ遅れた人、保護者が迎えに来られない児童、引き渡しなどいろいろな場合について考えておく必要がある。
- ・ 隣接している幼稚園児は、小学校へ避難するのがよいか、小学校を経由しないで避難所へ避難するのがよいか質問があった。状況に応じて、より安全なルートを自分で判断することが大事だ。防災には、正解があるというのではない。もしの場合は、古い建物のそばを通らないとか、国道は多くの車が通るようになるので注意が必要であるなどの助言を得た。
- ・ 香川大学の防災教育 VR を使うと、自分の行動でシミュレーションが変わり、判断の大切さを学べるので検討してみるとよい。



【アドバイザーとの協議】

- ② 7月11日（月）に予定している洪水避難訓練について助言をいただいた。
 - ・ 避難の段階の想定が警戒レベル4と設定されているが、弱者は警戒レベル3で避難すべきなので、避難の段階はレベル3に設定した方がよい。
 - ・ 南棟3階に全校生が避難するよう計画しているが、洪水時の避難は長時間になると予想されるので、本校の構造であれば、北棟も活用し、広い過ごしやすい環境で待機させる方がよい。

- ・ 学校にも備蓄物資があるとよい。
- ・ 避難訓練時に、児童の振り返りも大切にし、困ったことなど児童の声を拾うようにするとよい。

【事後活動】

① 事前の備えとして、校区内の登校班の状況を1枚の地図にまとめた。

- ・ 登校班の状況については、これまで地区ごとにファイルにまとめていたものの、万が一の時に全体を把握しづらいということも考えられた。そこで今回、大判の地図に書き込み、校区全ての児童の状況を俯瞰できるように作成し、校長室に設置した。

② 備蓄物資の希望を県危機管理課へ提出した。

③ 洪水避難訓練計画を修正し、教職員に周知し、7月11日（月）に実施した。アドバイザーの香川県防災士会 中島氏が来校され、訓練の様子を見て、ご指導くださった。

- ・ 児童は、真剣に静かに垂直避難できていた。昨年度の反省から、洪水の場合は、長時間になるだろうとこのことから、水筒を持って3階まで上がらせたことは、訓練になってよかったという意見が多かった。

また今回は、6年生は、その後で屋上まで避難する訓練を行った。万が一の場合に備えて、色々な場面を想定して訓練しておくことは大切だと考える。

防災士の方が来校され、訓練の様子を見てくださった。児童の精神的不安を和らげるため、ゆとりを持って準備や避難をすることが大切であることなどご助言いただいた。今後の避難訓練時も来校していただけると伺い、ありがたく心強く感じている。

2 今後の課題

- ・ 校内環境を見直し、再度安全対策を行う。
- ・ マニュアルの見直しを行い、全職員で共通理解する。
- ・ 児童の振り返りを大切にし、児童の目から見た改善点を共有する。
- ・ 地域の防災関係者や保護者との連携をしていく。



【校区内の登校班を1枚の地図に】



【洪水避難訓練 3階へ垂直避難】



【6年屋上へ避難 防災士の話を伺う】

学校（園）名	東かがわ市立大内こども園
派遣内容	危機管理マニュアルや避難訓練計画等の評価、見直しに係る助言
日時	令和4年7月5日（火） 13:30～15:00 令和4年9月7日（水） 9:30～11:00
場所	東かがわ市立大内こども園 子育て支援室、各教室、遊戯室
参加者	<u>7月5日（火）</u> 職員 7名、東かがわ市子育て支援課 1名、消防署 1名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名） <u>9月7日（水）</u> 職員 32名（協議会参加6名）、園児 121名 東かがわ市子育て支援課 1名、東かがわ市危機管理課 2名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	<u>7月5日（火）</u> 13:30～15:00 危機管理（台風等発生時）マニュアル 避難訓練について協議 <u>9月7日（水）</u> 9:30～10:00 避難訓練 10:05～11:00 避難訓練や気象警報発令時マニュアル、 避難訓練時の子どもや職員の動きについて協議

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 洪水及び土砂災害時の避難場所についてどこが最適かを職員間で話し合っで見直し、避難場所の変更に合わせて避難訓練計画書を作成した。
- ・ 避難訓練時の子どもや職員の動きについて、職員が迷いながらしていることや防災アドバイザーから専門的なアドバイスをもらいたいことについて話し合う。

【中心活動】

7月5日（火）

- ・ 巨大地震発生時の時系列的事象や、園が立地している場所が災害時にどのようなリスクがあるか具体的に教えていただいた。園の駐車場前の道路が土砂崩れの危険性があることや、地震の際液状化する危険性があること、津波や川の洪水で浸水する可能性は極めて低いことなど今まで分からなかったことを知ることができた。
- ・ 「キキクル」というツールについて、また避難行動は「キキクル」の警戒レベルに合わせて行くとよいこと、危機管理（台風等発生時）マニュアルや避難訓練計画書も「キキクル」に連動したものに見直すことよいことを教えていただいた。



【協議会の様子】

- ・ 地震時の危険防止の為に、日頃から気を付けておくべきこと（保育室の環境等）について教えていただいた。

9月7日（水）

- ・ 洪水及び土砂災害時の避難訓練を実施し、講評、助言をいただき、園児についても誰が水害のリスクが高い場所に住んでいるか等場所を把握しておくこと、「キキクル」の避難レベルを図式化したポスターを活用すると職員の意識づけにつながることで、川の洪水の心配がなくても用水路や側溝の排水が悪いと水が溢れて危険になることなど知った。
- ・ 気象警報発令時マニュアルについて、避難場所で子どもにどのような言葉掛けをするか、保護者へ引き渡す際の注意事項等も加えるとよいとアドバイスをいただいた。
- ・ 避難訓練時の子どもや職員の動きに関する質問に、火災の場合靴を履くのに時間が掛かるようなら外へ逃げることを優先することや、地震の際机の下に隠れるように指導しているため、子どもは外に出たらよい場合でも部屋に戻ってきて机の下に隠れる事例もあったので、いろいろなパターンの訓練をすることが大切であることなど教えていただいた。



【避難訓練の様子】

【事後活動】

- ・ 職員に協議会での話の内容を周知した。また、職員が自分のスマートフォンに「キキクル」を入れ、すぐに確認できる状態にした。今後は、「キキクル」や気象庁等からのいろいろな情報を得ながら対応していくようにしたい。
- ・ 1回目の協議会后、気象警報発令時マニュアルと洪水及び土砂災害の避難訓練計画書を「キキクル」の警戒レベルに連動して避難できるように作り直した。

2 今後の課題

- ・ 2回目の協議会でのアドバイスを踏まえて、気象警報発令時マニュアルと洪水及び土砂災害の避難訓練計画書を再度見直す。また、他のマニュアルや避難訓練計画書についても、園が立地している場所の災害リスクに合ったものになるよう見直していく。
- ・ 今回の協議会の内容について、再度職員で確認したり話し合ったりする研修会を設ける。また「キキクル」の避難レベルを図式化したポスターを活用したり、水害のリスクが高い場所に住んでいる園児が分かる地図を作成したりして、職員が危機管理意識を高め災害時に対応できるようにしていく。
- ・ 園の駐車場前の道路が災害時には土砂崩れの危険性があるので、その場合の送迎方法について考え、保護者に周知する。

学校（園）名	坂出一高幼稚園
派遣内容	危機管理マニュアルについての助言、避難訓練について
日時	令和4年7月20日（水）14：00～16：00
場所	坂出一高幼稚園 遊戯室
参加者	教職員 9名 アドバイザー 4名（香川大学 2名、防災士会 2名）
内容・日程等	14：00～14：05 あいさつ 自己紹介 14：05～15：00 危機管理マニュアルについての助言 15：00～16：00 避難訓練について

1 取組における成果

【事前活動】

アドバイスを受けるにあたって、教職員各自の質問・困っていることなどを出し合った

【中心活動】

- ① 本園の危機管理マニュアルについて不足している点を指摘していただいたり、実施するにあたって注意する点についてアドバイスをいただいたりした。質疑応答の中では、災害伝言ダイヤルの使い方や防災アプリなどの情報も教えていただいた。子どもは、いざというときは、騒ぐか固まって動けなくなるので、とにかく訓練が大切であることや、緊急地震速報の音に慣れ、その音に反応して動けるようにしておくこと、笛を使って子どもたちに知らせたり子どもたちを集めたりすること、縦に並ぶ習慣をつけておくことが人数確認に役立つなど、普段の生活で積み重ねておくことの大切さを教えていただいた。
- ② 避難訓練については、幼稚園において現場を見ながら、具体的な場面を想定して、望ましい避難行動などについて教えていただいた。津波や大雨などの想定で質問したところ、幼稚園周辺に起こりうる災害について、避難場所など具体的な情報を提供していただいた。
- ③ あらかじめお尋ねしていた疑問にお答えいただくとともに、南海トラフ地震を想定して、起こった時にどのような状況になるのか、どのような行動ができるのか教えていただいた。

【事後活動】

それぞれが消火器の場所を確認する

2 今後の課題

- ① アドバイスをもとに危機管理マニュアルを手直しする。
- ② 避難訓練の方法・回数等を見直す。
- ③ 今回の派遣事業の振り返りを教職員で行い、普段から心がけておくことの共通理解をはかる。
- ④ 保育室内のロッカー等の固定を行う。

※事業当日の参考資料がありましたら、添付してください。

学校（園）名	高松市立香南中学校
派遣内容	実効性のある避難計画の見直しについて
日時	令和4年7月26日（火）9：00～10：30
場所	高松市立香南中学校 理科室
参加者	教職員 18名 アドバイザー 4名（技術士会 2名、防災士会 2名）
内容・日程等	9：00～10：30 災害時の対応について協議

1 取組における成果

【事前活動】

今年度実施した避難訓練の課題点を職員間で共有し、今後の避難訓練のあり方について検討した。特に、教職員の実践力を上げるために、AED講習や消火器の使い方など事前に研修を行った。また、課題に上げられた「南海トラフ地震が発生した場合、本校や地域はどうなるのか」について防災アドバイザーに伺い、避難訓練計画を見直すこととした。

【中心活動】

① どのように被災するのか

- ・ 本校周辺の液状化の危険はかなり低いと想定されるが、近隣のため池が決壊し、濁流となって本校周辺に流出する可能性がある。

② 立地について

- ・ 周辺に河川が少なく、地盤が安定しているので液状化のリスクがかなり少ない。
- ・ 津波の心配が少ない。

③ 避難場所・避難経路の見直し

- ・ ため池が決壊することが予想されるので、近隣の公園や駐車場は避難場所に適さない。
- ・ 運動場東側周辺と体育館（耐震性100%）が安全である。
- ・ 教室内の天井が剥がれ落ち、廊下の窓ガラスが散乱することが予想されるので、どの避難経路が安全であるのか、避難訓練を通して備える必要がある。



【防災アドバイザーによる研修会】

④ 地震・防災対策マニュアルの見直し及び理解

- ・ 災害時における教職員の分掌について検討しておく必要があるが、配置換えがあるので毎年行うようにする。ただし、小規模校の場合は分掌を統合するなど、柔軟な対応ができるように検討する。
- ・ 校区内外の協力体制を整えておく。
- ・ すべてのグループが同時進行ではないため、時系列に整理し、効率的に担当教員を配置する。



【担架の使い方授業】

⑤ グループ討議

- ・ 保護者連絡や避難後の引き渡しについて、事前に保護者に周知しておくことや、実際に想定した避難では、生徒が負傷者を担架で搬送しなければならないので、担架の使い方について学習しておくことを検討した。
- ・ M6クラスの地震を想定し、火災なし、東階段封鎖、池の氾濫あり等、制限を加えた避難訓練を行うことや、事前に生徒や教職員に周知しないで行うと、どのような課題が見つかるのか職員間で検討した。また、避難する時の注意点について集会で周知した上で避難訓練を行うことを検討した。

【事後活動】 避難訓練計画を見直した後、避難訓練を実施した。

(避難訓練の様子)



【避難行動をする様子】



【安全な避難経路で避難する様子】



【特別教室から避難する様子】



【生徒同士で負傷者を搬出する様子】



【代表者による発表】



【被災状況をマップにまとめる様子】

2 今後の課題

- ・ 体育館の放送機器の不具合の修理、担架の配置数を増やすことや防災ヘルメットを各教室に常設できないか検討した。
- ・ 地域や保護者の送迎の問題や新たな避難場所について再考した。
- ・ 生徒や全職員が被災状況を把握できるように、被災状況をまとめることができるマップ作成に取り組んだ。
- ・ 体育館が地域の避難場所になっているので、全職員が非常用備蓄品、AED、薬、毛布など、どこに保管しているのか把握することも課題とした。
- ・ 防災アドバイザーの指導助言を受けて、今後、避難訓練の見直しと学校防災マニュアルの見直しを行うこととした。特に、教職員の動きを職員同士で意見交換し、より実践に近い訓練を行うための工夫を行わなければ、日ごろからの防災意識や実践力も高まらないと感じた。
- ・ 活動後の生徒アンケートで「先生の指示に従って避難できた」という回答が多数あった。しかし、生徒が自ら判断して動くことができなければならないので、今後の避難訓練の行い方を改善しなければならないと感じた。
- ・ これまでの避難訓練は担任が避難誘導を行っていたが、授業者や生徒など、誰もが避難誘導できるように訓練計画を再考する。

令和4年度 防災避難訓練実施計画（改案）

高松市立香南中学校

1 ねらい

- (1) 緊急時（地震）における自己と集団の安全のあり方を考える。
- (2) 被災状況に応じた冷静な判断力や行動力を高め、実践力を養う。
- (3) 集団での避難のさせ方について職員が知り、対応力を養う。

2 予想される問題点

- 階段での混雑（上の階の生徒の待機のしかた）
- 避難時の真剣さの不足 ※真剣さ、しゃべらせない事の指導を徹底する。

3 日時 令和4年〇月〇日〇校時

4 想定 東階段封鎖、火災無し、池の氾濫有り、内線電話有り（故障なし）

5 避難訓練の実施要領

日時	生徒の活動	教職員の活動
14:15	<p style="text-align: center;">1 地震・火災発生 of 放送</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 静かに放送を聞く。 ○ 安全行動1-2-3をとる。 <p>【教室：机の下にもぐる】</p> <p>【階段：廊下は頭を守り、窓から離れて伏せる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎【放送：教頭】 ※緊急地震速報の疑似音を流す（1分間） 「訓練。これは訓練です。生徒のみなさん、先生方へお知らせします。只今、高松市に緊急地震速報が発令されました。数秒後に、大きな揺れが予測されますので、直ちに安全行動をとって下さい。」 ◎地震発生（1分間）※職員も机の下で地震がおさまるのを待つ。地震がおさまれば、すぐに状況把握を行う。（放送はありません） ●近くの職員同士で情報を共有し、各フロアの情報を一つにまとめて、1年〇〇先生、2年〇〇先生、3年〇〇先生が安全な避難経路と負傷者の有無を教頭先生へ内線連絡する。
14:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 静かに放送を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「放送：教頭」（繰り返し放送する） 「全校生へ連絡します。先ほどの地震で、校舎内が安全でないことが確認されました。また、現時点で校内に火災は起きていませんが、中学校南側のため池が決壊し濁流が流れてきています。次に負傷者の連絡をします。現在、各学年1名の生徒が負傷しています。（1年〇〇さん、2年〇〇さん、3年〇〇さん）すぐに担架の準備をお願いします。最後に避難経路について連絡します。校舎東階段が通れませんので、西階段を降りて、職員玄関から噴水前を通り、体育館へ避難して下さい。また、校舎内の通路が、ガラスが飛散しています。また、机や椅子が散乱している箇所や、天井がはがれ落ちてきている所があり

☆授業者は、負傷者の確認、被災状況を把握し、近くの先生と情報を共有する。その後は、生徒観察、声かけ等。
 ☆授業者以外の先生は、より安全な避難経路を把握する。担架の準備・搬送。※生徒可。

<p>14:22 (移動開始)</p>	<p>○ <u>バッグ(無いときは別の物)で頭部を守りながら、上靴のまま避難する。</u></p> <p>○ <u>無言で素早く冷静に避難する。</u></p>	<p>ますので、各自バッグで頭を守りながら避難して下さい。それでは避難して下さい。</p> <p>※教頭先生は連絡網を持って体育館へ。</p> <p>☆授業者は出席簿を携行し、避難誘導を開始する。</p> <p>「押さない」・「走らない」・「しゃべらない」・「もどらない」</p> <p>養護教諭</p> <p>保健室に生徒がいれば避難させる。</p> <p>相談室の生徒について</p> <p>授業担当者が避難させる。負傷している場合は、近くにいる人に協力を求める。</p>						
<p>2 人数確認 (授業者が確実に)</p>								
<p>14:25</p>	<p>○全校集会の隊形で整列する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> <p>ステージ</p> </div> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>3年生</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>_____</td> </tr> </table>	3年生	_____	2年生	_____	1年生	_____	<p>●全校集会の隊形で整列させ、人数を報告する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px;"> <p>人数報告：授業者→教頭→校長</p> </div> <p>『何年何組 在籍〇〇名、欠席〇名、現在〇〇名 全員避難しました。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px;"> <p>授業者は、負傷者や不明生徒について体育館のホワイトボードに記入し、被災情報を共有する。</p> </div> <p>●負傷者の搬送に時間がかかるので、全校生が揃うまで静かに待たせる。</p> <p>◎「生徒への周知連絡：校長」</p> <p>「現在の状況ですが、先生方が被災状況の確認と今後の対策をしているところです。また、これからみなさんの保護者に連絡をしています。今後、大きな揺れも予想されるので、体育館内で頭を守るなどして安全な行動を取って下さい。待っているときも、一人がしゃべり出すと、大切な指示が聞こえなくなるので、静かに待つようにして下さい。</p> <p>●代表者(1年〇〇さん、2年〇〇さん、3年〇〇さん)に感想を発表させる。(事前に本人に伝えておく)</p> <p>●この後の予定を話す(給食、掃除、帰りの会)</p> <p>●授業内で書けない場合は、帰りの会などで、各団の裁量で書かせる。</p>
3年生	_____							
2年生	_____							
1年生	_____							
<p>☆授業者は生徒の安否状況を必ず記入する</p> <p>※記入について別紙参照</p> <p>☆教頭先生が記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震度・今後の地震予想・ため池の氾濫状況 ・校内被災状況 ・関係機関との連絡・安否・安全確認 								
<p>14:30</p> <p>14:35</p> <p>14:40</p>	<p>○発表者の感想を聞く。</p> <p>○校長先生の話聞く</p> <p>○後の時程について聞く</p> <p>○教室へ移動。</p> <p>○ワークシートに記入</p>	<p>●この後の予定を話す(給食、掃除、帰りの会)</p> <p>●授業内で書けない場合は、帰りの会などで、各団の裁量で書かせる。</p>						

学校（園）名	観音寺市立大野原中学校
派遣内容	学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
日時	令和4年7月26日（火）13：30～15：30
場所	観音寺市立大野原中学校 ラーニングルーム
参加者	教職員3名（管理職） 観音寺市教育委員会1名 アドバイザー4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	13：30～15：00 危機管理マニュアル見直しの視点と助言 15：00～15：30 次回避難訓練(11/28)への助言

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 本校の危機管理マニュアルの見直しに際し、文部科学省が作成している「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」やそのリーフレットを参考にした。
危機管理マニュアルが文章による説明が多いため読解による時間を要することから、時系列によるフローチャートへの変更を検討する。また、先述したガイドラインは、危機管理をおおむね3段階（事前－発生時（初動）－事後）と整理していることを確認した。

【中心活動】

- ① 危機管理マニュアルの見直しに際し、香川大学から複数の危機管理マニュアルの提示と説明をいただき、具体的な見直しの視点を検討した。
国（大阪教育大学附属池田小学校）や他県（高知県学校防災マニュアル作成の手引き、作成中の保育園等）の防災マニュアル等が提示され、時系列によるフローチャート作成に向けて大変参考となった。一方、必ずしもフローチャートによる表記ではなく、見直しの重要性を説かれた。
- ② アドバイザーから、本校危機管理マニュアルへの助言や気がついた点など、ご指摘いただいた。
 - ・ 雷発生時の対応について再確認。過去の事例（14km先からの落雷）から、危険性を再確認。
 - ・ 本校には、生徒・教職員ともに頭部を守る道具が無いこと。→ 市への要望、受益者負担等
 - ・ 今ある施設（消火ポンプ）を活用した消火活動はできるか。
 - ・ 登下校中、生徒のみで有事に遭遇した場合、どのような行動をするか。保護者や生徒は理解できているか。
- ③ 次回避難訓練への助言
 - ・ 生徒自らがアイデアを考えるなど、生徒を巻きこんだ避難訓練を前提にしてほしい。具体的には、「なぜ運動場に避難するのか」を考えることを通して、生徒は自分の命は自分で守る行動につながっていくだろう。また、香川大学教授の『防災は地域にある力を総動員して考える』という発言を引用し、PTAや地域の方にも力を借りることが当たり前という発想をもつ。

2 今後の課題

- ・ 上記を参考に、本校危機管理マニュアルを見直し、フローチャート作成など一部を新しくする。
- ・ 次回避難訓練(11/28)の内容を検討する際、生徒・保護者・地域とともに考えるよう計画する。

学校（園）名	高松市立香川第一中学校
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し、避難訓練計画への助言
日時	令和4年8月1日（月） 9：00 ～ 10：30
場所	高松市立香川第一中学校 第2保健室
参加者	教職員 2名 アドバイザー 3名（香川大学 2名、防災士会 1名）
内容・日程等	9：30～10：30 防災計画及び避難訓練の見直し、検討

1 取組における成果

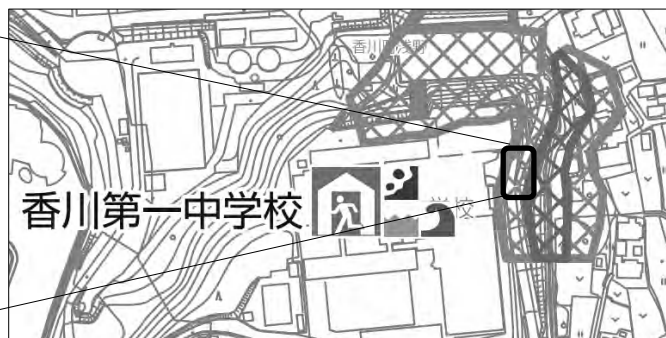
【事前活動】

① 避難場所の見直し

昨年の防災担当からの申し送り事項を含め、今年度の防災教育について検討、計画の見直しを行った。その際、浅野地区のハザードマップを根拠にして、より安全な避難経路及び避難場所を本校の企画委員会で提案し、職員会において周知した。



【令和3年度の避難訓練の様子】



【浅野地区ハザードマップ（土砂災害）の一部】

② 地震を想定した避難訓練の実施

本年度6月に今年度最初の地震被害を想定した避難訓練を実施した。緊急地震速報を受信した想定を避難訓練に盛り込むことにより、生徒自らが適切な対応行動を取り、その場に応じた一次避難ができた。ただ、その後の避難の際に、頭上を守るための本などを準備する共通行動が不十分だったことや、階段付近での避難遅れを回避するために別の階段を利用するなどの臨機応変さがないことなどの課題が残った。

③ 2年生社会の学習内容との関連付け

2年生地理の「日本の地域的特徴」の単元において、地形図と傾斜、気候と自然災害などについて事前に学習した。このことにより、防災への理解を深めるとともに、地理的条件と発生する災害が深く結びついていることを知り、避難訓練への意識を高めた。

【中心活動】

① 危機管理マニュアルの評価・見直し

・保護者への引き渡しについて、マニュアルに記載がなかった。生徒を保護者に引き渡した後、保護者と子が被災しないように、余震による被災リスクがある場合には学校に待機し

てもらうことなど、ご指導をいただいた。また、大きな地震時には下校させず、学校で預かることを平常時に保護者に知らせることに加え、引き渡しカードを作成しておくことや中学校校区内の3小学校との連携についてもご指摘いただいた。

② 避難訓練計画への助言

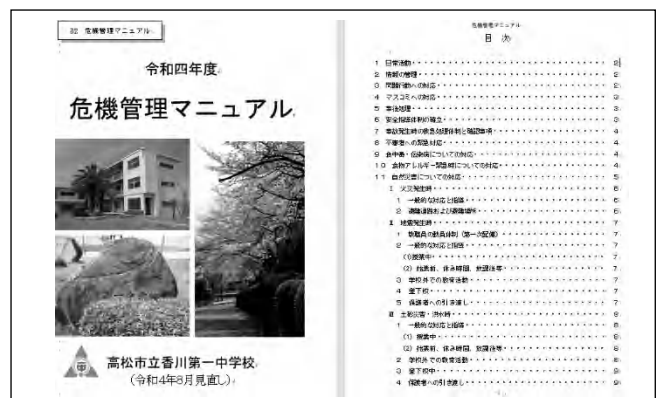
・本校の周辺の地図を基に、土砂災害、洪水災害と地理的特徴との関係性についてご指摘いただいた。適切な避難経路及び避難場所の設定や、保護者への引き渡しの際の安全な動線について再考するきっかけとなった。

・生徒への防災教育として、学校や通学路等に潜む危険や登下校中に地震が起きた時への対応の仕方等（危険予知トレーニング）について指導をいただいた。

【事後活動】

① 防災マニュアルの作成

アドバイザーからの助言等を受けて、防災マニュアルの作成を行った。従来の対応マニュアルは災害ごとに分かれて記載しており、一覧性に乏しかった。この度、危機管理マニュアルとして整理し、系統立てた。



【今年度作成した危機管理マニュアル】

② 避難訓練の改良

これまで、単独の災害を想定していたが、地震後に起こる火災など、複数箇所で同時多発的に災害が発生する、いわゆる複合的な災害想定した訓練を計画した。このことにより、これまでの避難訓練の経験を生かしながら、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成を図りたい。

2 今後の課題

① 授業時間以外の避難訓練の実施

大規模地震などの災害では、時間帯に応じて発生する様態が異なることが想定されるため、地域や小学校と連携した中学校での引き渡し訓練に加え、放課後や登校時の防災上の約束事について整理し、より実効性のある避難行動がとれるよう訓練する必要がある。

② 二次被害を想定した訓練

行方不明者の捜索やパニック防止などに対応するために、役割を明確にしておく必要がある。また、本校の地理的特徴から、駐車場が孤立し、教員が帰宅困難者になることも想定して、近隣の宿泊施設や公共施設等とも事前の連携が必要である。先日の大雪の際には、凍結した山道を車で通勤することが困難な場合を想定し、事前に安全な近隣施設の駐車場を本校の教職員用に確保した

結果的に活用する程の大雪ではなかったが、学校として、このような対応に至った背景には、本事業で派遣された学校防災アドバイザーや県教育委員会保健体育課指導主事による継続的な支援と啓発によるところが大きいと感じている。

学校（園）名	高松市立木太幼稚園
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し、避難確保計画と今後の避難訓練への助言
日時	令和4年8月3日（水） 9：30～11：00
場所	高松市立木太幼稚園 遊戯室
参加者	木太幼稚園職員 9名 アドバイザー 3名（技術士会 2名、防災士会 1名）
内容・日程等	9：30～10：20 <ul style="list-style-type: none"> 木太幼稚園周辺の土地の情報から見る災害規模の予想について 園の立地状況にあった危機管理マニュアル等は実効性のあるものになっているか 10：20～11：00 <ul style="list-style-type: none"> 今後の木太幼稚園の防災に対する考え方と実践方法について

1 取組における成果

【事前活動】

- 令和4年7月25日（月）に高松市立木太南小学校にて行われた防災アドバイザー派遣事業に園長・主任が参加した。学んだことをまとめ（別紙1）、今後の木太幼稚園での防災に向けて全職員で共通理解する場をもった。

【中心活動】

- 園の立地状況から、地震や洪水になった場合にどのような被害が想定されるかを学ぶ。
- 園の危機管理マニュアル、避難確保計画についての指導助言を受ける。
- 今後の防災対策に向けて園でまとめた意見について指導助言を受ける。

【事後活動】

- 危機管理マニュアルの災害発生時の連絡報告先の優先順位と報告内容を追記する。
- 避難確保計画の防災体制に具体的な活動内容や対応する職員の役割を追記する。

2 今後の課題

- 今回の研修で学んだことを基に、園での対応を見直すとともに、保護者への情報提供と園の対応への理解の場を設ける。
- 木太南小学校へ避難する場合の、避難経路と待機場所の確認、保護者への引き渡しをする際の想定をし、職員の役割分担等を明確にする。また、保護者への引き渡し訓練を小学校で行う計画を立てる。
- 園内の避難訓練では、打ち合わせした内容に加えて、実際の被災を想定し計画外の事柄を組み込むことで、臨機応変に対応できるような訓練内容にしていく。

8/3 学校防災アドバイザー派遣事業に向けての共通理解項目

【基本情報】 <標高> 木太幼稚園 2.5 m 木太南小学校 3.3 m

	地震・津波関連	野田池・大池決壊関連	洪水（新川・春日川）関連
津波・洪水 最高水位	<p><南海トラフ時の予想最高津波水位> 2.6～2.7 m 朔望平均満潮位 1.2 m + 地盤沈降量 0.4 m + 最高津波波高 1.0 m</p> <p>※幼稚園周辺に津波（浸水）が来る場合は最大0.2 mであると予測される。</p> <p>※木太幼稚園の立地から調度境界であり、浸水の可能性がかなり低い。</p> <p>※木太南小学校は浸水の範囲外である。</p> <p>※木太南小学校の立地場所は盛土であり、液状化に弱い。</p>	<p><木太幼稚園> 要避難区域</p> <p>最大浸水0.5 m未滿</p> <p><木太南小学校> 最大浸水0.5 m～3.0 m</p>	
到達時間	2～3時間	※降水量等により情報収集の必要あり	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 木太南小学校への避難経路の危険性が高い。（高架下、橋、川の傍を歩くなど） 木太南小学校が地域の避難所になっている。校区外の避難者も受け入れる。 木太南小学校の児童の引き渡しも同時に行われる。 木太幼稚園の保護者は、木太南小学校に行ったことがない人もいる。 朝7時の時点で警報が出た場合は臨時休業。 保育途中で警報が出た場合は、すぐにお迎えの依頼（全園児お迎え完了は1時間15分：R3年度に実際に警報で依頼した際） 		

<基本情報を基にした園での考え方>

☆地震・津波に関しては、小学校への避難の必要性が低いですが、火災や落下物による危険性から避難する可能性もあるので、引き続き幼小合同訓練は行っていく。
 ☆池の決壊、川の氾濫等からの浸水情報はどこから、どのようにに園に伝わるのだろうか。こちらから調べるができるのだろうか。

【今後に向けて】

確認事項	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で共通理解 <ul style="list-style-type: none"> 木太南小学校での待機場所等確認と、小学校で引き渡しをする際の想定 園内の物品の転倒防止対策 保護者への情報提供とご理解いただく <ul style="list-style-type: none"> 保護者が木太南小学校へ行く機会（引き渡し訓練）を設ける 園長・主任が不在の場合の代行者を決めておく 揺れの想定は3～5分とする（南海トラフ地震が起こった場合） 事前の打ち合わせとは違う内容を入れ込む。（ガラスや蛍光灯の飛散で通れない場所ができるなど） 地震発生後の情報収集が困難な場合（電話がつかない、TV、ラジオ等からの情報がなかなか入ってこない等）の対応について考える。
地震・津波の 避難訓練について	

学校（園）名	香川県立高松養護学校
派遣内容	・災害から身を守るための備えや心得についての助言 ・6月に行った避難訓練計画についての助言
日時	令和4年8月23日（火）10：00～11：00
場所	香川県立高松養護学校 会議室他4室（感染症拡大防止のためオンライン中継）
参加者	教職員 91名 アドバイザー 4名（技術士会 2名、防災士会 2名）
内容・日程等	10：05～10：35 講話① 「香川県立高松養護学校における災害への備えや心構え」 10：35～10：45 講話② 「これからの避難生活のあり方と福祉避難所の現状」

1 取組における成果

【事前活動】

6月に行った防災避難訓練について、防災に携わるメンバーを中心に課題や改善策について話し合いをした。その内容をもとに、防災避難訓練計画の改善案を作成した。「学校防災アドバイザー」との事前打ち合わせの際に、課題や改善策についてご助言をいただいた。

【中心活動】

講話① 「香川県立高松養護学校における災害の備えや心構え」について

香川県は災害の少ない所と思われがちであるが、過去には甚大な被害をもたらした風水害が存在する。被害を少なくするためには、気象情報・現在地のハザードマップ・避難情報など、情報を把握し、避難のタイミングを見極めることと、避難時に弱者を救出する支援の体制ができていくかということが大切であるとのことをご講話をいただいた。

また、本校の防災避難訓練については、訓練後に出てきた課題に対して学校としてどう対応するのか決めておくことと、考えるプロセスを省略せず一人ひとりが考える場を作ることが大切であるとのことをご助言をいただいた。

学校の立地条件や建物について知り、学校の実態に合った備えや訓練をしていくうえで、大変参考になるご講話であった。



【講話①の様子】

講話② 「これからの避難生活のあり方と福祉避難所の現状」

居住地のハザードマップや住居の耐震化工事の有無にもよるが、発災時に避難所へは行かず、自宅で避難するという考えが増えている。また発災時に障害者や高齢者は、まず一般の指定避難所に入った後、順次、介護施設などの福祉避難所へ移るということになっており、直接、福祉避難所に行くまでには至っていないとのご講話をいただいた。

本校の児童生徒にとって大変参考になる内容であり、日ごろから保護者と知識や認識を共有していく必要を感じた。



【講話②の様子】

【事後活動】

今回の講話をもとに、10月に行う防災避難訓練計画を作成する。

1回目の避難訓練の改善策を内容に反映するとともに、職員に変更点を周知する。

2 今後の課題

・安全対策マニュアルの見直し

防災対策本部設置図 … 図式化し各班の業務内容を明確にする。

避難所運営 … 発災時に学校で児童生徒と宿泊しなければならなくなった場合の業務内容と役割分担について検討する。

・話し合いの場の設定

発災時における行動指針 … 避難訓練などを通して出てきた課題について話し合いの機会を持つとともに学校としての指針を決めていく。

学校（園）名	高松市立勝賀中学校
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し 避難訓練についての助言
日時	令和4年8月22日（月）9：00～11：00
場所	高松市立勝賀中学校 会議室
参加者	教職員3名 校区内小学校教員2名 アドバイザー 3名（技術士会 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	9：00～10：00 危機管理マニュアルについて 10：00～11：00 避難訓練について

1 取組における成果

【事前活動】

- 作成している危機管理マニュアルの見直し
- 避難訓練の検討

【中心活動】

① 本校校区の災害環境について

勝賀中学校校区の災害環境について、防災士の方から「地震災害」「洪水災害」「高潮災害」「その他の災害」の視点から次のような説明をいただいた。

○ 地震災害

本校校区の地盤が、海水面の低下によって海底が陸化した平坦地や、低地を盛土によって造成した土地が多く、南海トラフ地震による最大震度は、6弱から6強と考えられており比較的揺れやすいところであることが分かった。また、液状化のリスクもあり、河口部の砂質地盤では、多く発生する可能性があることも分かった。南海トラフ地震時の津波では、勝賀中学校は標高4m程度あることから、浸水の被害はないと考えられているが、余震対応や帰宅困難生徒の対応など、事前にシミュレーションしておく必要があることを認識した。

○ 洪水災害

学校の近くに本津川があり、想定最大規模の降雨（24時間で約720mm）によって氾濫した場合、周辺は浸水エリアになるため、高台への非難が必要になる。本校は、避難所になっているが、体育館への非難は極めて危険である。

○ 高潮災害

平成16年の台風では、高潮が発生し、本校も浸水被害を受けた。

○ その他の災害

学校周辺の地盤は平坦であり、山の斜面もなく斜面崩壊等の土砂災害はないと考えられているが、登下校に影響がある場合がある。

周辺にため池があるが、決壊の可能性はないと考えられているが、線状降水帯によって道路が水路になる可能性があり、やはり登下校に影響が出る可能性がある。

これらのことを、図示しながら丁寧に説明をしていただいた。

② 危機管理マニュアルについて

本校で作成している危機管理マニュアルについて、事前に送付し助言をいただいた。その中で、本マニュアルは、令和4年4月に作成しているが、マイナーチェンジを繰り返しており、現状にそぐわない部分が多くみられることが分かった。特に、地震発生時の対応では、緊急地震速報がどのタイミングで流れるのか、初期行動指示（緊急放送）を誰が行うのか、状況把握を誰がどのように報告するのか、管理職の委員会への報告はどのように行うのかなど、見直すポイントが多く見つかった。また、校区の小学校における危機管理マニュアルとの整合性を確認する必要があることも分かった。

危機管理マニュアルは、管理職だけが把握していればよいのではなく、教職員全員が目を通しておく必要がある。それが生徒一人一人を守ることにつながるということを再確認した。

【事後活動】

- 危機管理マニュアルは、ご助言を踏まえ、現状に合ったものに改変作業を行っている。実際に、校区内の状況を調査したり、教職員で共通理解を図ったりしたことを、マニュアルに反映させている。
- 避難訓練については、3年ぶりに全校生が集合する形で実施した。火災を想定した訓練であったが、小学校の時に避難訓練をしているため、中学校で初めてとはいえ比較的スムーズな非難ができた。また、これまでは、非難するまでの時間や、静かに非難することなどの指導が多かったが、今回は、本校は地域の避難場所であることを踏まえ、生徒一人一人が、避難者をサポートすることもあることを伝えた。



【授業中での避難行動】



【体育授業中の避難行動】

2 今後の課題

今回は、自然災害からの避難や対応、危機管理について多くの助言をいただいた。学校（生徒）を取り巻く環境は、不審者、感染症、食中毒等、多くの危険がはらんでいる。教職員全員が、危機管理意識を高め、それを維持できる状況にするため、危機管理マニュアルを配布するだけでなく、抜粋などを使い研修したり、各職員室に掲示したりするなどして啓発していく必要がある。

学校（園）名	綾川町立羽床小学校
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し、避難訓練計画への助言
日時	令和4年8月23日（火）13：30～15：00
場所	綾川町立羽床小学校 視聴覚室
参加者	教員 11名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	13：30～15：00 危機管理マニュアルの見直しや災害を想定した実効性のある避難訓練について、質疑応答

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 本校の危機管理マニュアルを読み直し、問題点や疑問点等を洗いだす。
- ・ 1学期の安全教育について、全教員が振り返りと評価を行い、今後の課題と改善策を見いだす。

【中心活動】

本校の危機管理マニュアルと防災教育について、防災アドバイザーの方からご指導、ご助言をいただいた。

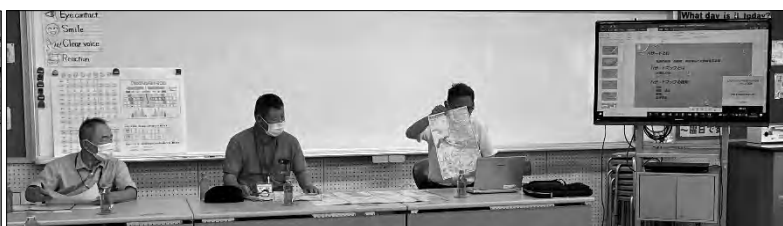
- ・ 災害対応については、自助が最も大切である。日頃の防災教育では、子ども自身が自分の身を守ろうとする考え方や方法を身に付けることが大切である。
- ・ 避難訓練を実効性のあるものにするために、様々なシチュエーションや突発的なことに対応する内容で行うとよい。訓練で問題点を明らかにし、今後の避難に生かすとよい。
- ・ 本校の危機管理マニュアルでは、教師がすべきことのみ述べられている。児童の目線で作成することで、実効性のあるものになる。児童が安全点検の一部を行ったり、防災マップを作成したりすることで、児童の防災意識が育つ。
- ・ 土地には特色があるため、防災についてもそれぞれの地域で気を付けなければならないことがある。地域の方から過去の災害の話聞くことで、学校がすべきことが見えてくる。

【事後活動】

ご助言いただいたことから、2学期の避難訓練の具体的な実施方法について話し合った。また、現在の危機管理や防災教育について、改善すべきこと等を管理職や安全担当者と話し合った。

2 今後の課題

- ・ 児童の役割を意識した危機管理マニュアルの作成や児童と行う安全点検の実施について検討する。また、突発的なことに対応する避難訓練の実施に向けて計画と準備を進める。
- ・ 児童による防災マップ作り実施に向けて、他校の実践について調べる。



【防災アドバイザーの講話】

学校（園）名	三豊市立高瀬中学校
派遣内容	夜間学級における災害時の避難方法等について
日時	令和4年8月24日（水）13:30～15:30
場所	多目的会議室
参加者	教職員 8名 三豊市教育委員会 1名、三豊市防災指導員 1名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	13:30～14:10 校区の災害リスク及び危機管理マニュアルについて 14:10～14:40 夜間学級における災害時の避難方法について 14:40～15:10 災害への備えについて 15:10～15:30 意見交換

1 取組における成果

【事前活動】

本校は、今年度4月に夜間学級を開設し、9名の新入生を迎えた。生徒の年齢層も16歳から85歳と幅広い。教職員の数も昼間部に比べて少ない。活動時間も夜間であるため、昼間部の防災計画のままでは不測の事態に陥ることが十分に予想される。限られた人数で災害時にどのように避難誘導するのか、など、夜間の活動を想定した危機管理マニュアルの見直しを検討した。

【中心活動】

- ・ 学校や周辺の地理的特徴や過去の被害を踏まえたうえで、災害リスクを明らかにする。
- ・ 地理的特徴や災害リスクにあった危機管理マニュアルを作成する。
- ・ インシデントが発生してからの対応を時間軸に沿って、様々な場面を想定し具体的に考える。
- ・ 避難場所としての機能を考え、必要な備品や設備を整える。

【事後活動】

- ・ 防災アドバイザーの助言をもとに、夜間学級にも教職員・生徒等の防災ヘルメットを整備した。
- ・ 昼間部を含め、災害時の避難方法や避難訓練を見直した。
- ・ シェイクアウト訓練を実施した（昼間部・夜間部）。
- ・ 防災アドバイザーの指導の下、避難訓練を実施した（昼間部）。

2 今後の課題

- ・ 昼間部と連携した危機管理マニュアルの整備
- ・ 災害時の避難方法の見直しと効果的な避難訓練の実施
- ・ 避難場所として必要な備品の整備
- ・ 個の様態に合わせた防災教育



【学校防災アドバイザー提供資料の一部】



【避難訓練時の学校防災アドバイザーによる講評（昼間部）】

学校（園）名	坂出市立坂出中央幼稚園
派遣内容	危機管理マニュアルの評価・見直し、避難訓練計画への助言
日時	令和4年8月25日（木）14：00～16：00
場所	坂出市立坂出中央幼稚園 職員室
参加者	教職員8名
内容・日程等	14：00～15：00 坂出中央幼稚園周辺の災害リスクについて 危機管理マニュアルについて 15：00～16：00 災害を想定した避難方法について、意見交換

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 現在の危機管理マニュアルの課題について全教職員での協議
- ・ 地震・津波を想定した避難訓練の計画案の作成

【中心活動】

① 坂出中央幼稚園周辺の災害リスク及び危機管理マニュアルについて

- 災害時、坂出中央幼稚園及び周辺はどのようなリスクがあるのか
 - ・ 「かがわ防災webポータル」による震度想定、土砂災害想定、液状化想定等の確認。
 - ・ 近隣のため池（鎌田池、御大師池）の崩壊による浸水予想。
 - ・ 番の洲からの油、薬品の流出の危険や津波火災も想定される。
- 災害リスクに対応したマニュアルになっているか
 - ・ 停電時に放送機器など必要物品が利用できるものかを確認しておく。
 - ・ 教職員の安全確保、階段移動の際は余震を念頭において転倒防止などの注意を記載する。
 - ・ 非常時の連絡手段について「災害伝言ダイヤル171」の活用と周知。
 - ・ 津波想定エリア内で垂直避難をすると周囲が瓦礫だらけになり2～3日救助隊が来られないので、なるべく速やかに水平移動し、第4避難場所方面への移動が望ましい
- その他、災害に備えてマニュアルに記載・共有する事項について
 - ・ 園外保育時に被災した場合、災害復旧に向けた保育活動について。
 - ・ マニュアルの変更点についてはその理由を記入しておくこと経緯が伝承される。
- 災害を想定した避難方法について
 - ・ 避難訓練では緊急地震速報の音声などを利用することで防災意識が向上する。
 - ・ 復旧までに停電1週間、断水1か月がこれまでの事例からの目安となっているので備蓄品はできるだけ携行する。
 - ・ アプリ「香川県防災ナビ」を活用して、保護者に子どもを引き渡して終わりではなく、安全な場所に着くよう情報提供する。
 - ・ 通園バス稼働時や災害時に電話以外の通信手段（無線）が利用できるように、日頃から操作に慣れておく。

【事後活動】

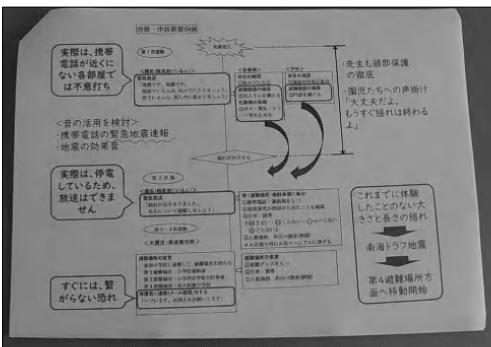
- ・ 無線と「災害伝言ダイヤル171」について全教職員で使い方を確認。
- ・ 停電時に放送機器が使えることなど、施設設備について確認。
- ・ アプリ「香川県防災ナビ」の活用。
- ・ 1週間後の避難訓練では、地震防災訓練の鳴動音を利用し、避難行動のあと備蓄品を携行して第2避難場所へ移動する訓練を実施。
- ・ 研修を通して、まずは教職員の身を守ることが重要であることが分かり、ヘルメットや非常持ち出し袋の置き場所を見直し、その後の避難訓練で参加した教職員一人一人が「これが本当の南海トラフ地震だったら」と考えながら行動することで新たな疑問や課題に気付いた。

2 今後の課題

- ・ 園や周辺の災害リスクを全教職員が理解することで、防災や避難訓練に対する意識が大きく向上したので、教職員の異動があっても災害リスクへの理解が継続する工夫をしたい。
- ・ 危機管理マニュアルについては今回の研修や、研修を受けた後の教職員の気付きを生かして改善したい。
- ・ 保護者にも分かりやすく十分な周知を行い、防災意識向上につながる啓発を行いたい。
- ・ 震度想定、土砂災害想定、液状化想定等の、近隣のため池（鎌田池、御大師池）の崩壊による浸水予想など、本園や園周辺の災害リスクを理解できたが、さらに線路の高架橋も近く、大規模災害時の第4避難場所へ向かうには高架下を通る必要があり、備蓄品を携行しながら避難する場合に経路の確認と連絡手段の確保などの備えが必要と思われる。
- ・ 職員体制が不備な場合に、代行者が状況に応じた適切な判断、行動ができるよう避難訓練の年間計画に位置付けたい



【避難訓練の参考動画を視聴】



【危機管理マニュアルの助言内容】

避難内容	決断の活動	留意点（教師の動き）
＜事前＞ 避難訓練のねらいや約束ごとについて話し合い、共通理解する。 避難音（防災警報をかぶる） お一冊さない か一冊付かない し一冊かに避難する（しゃべらない） も一冊らない	・ 各クラスで避難訓練について話し合う。 ・ 防災警報をかぶることや、かぶって避難することに慣れる。	・ 避難場所の中身を確認する。必要上特別災害、防災警報中の姿やヘルメットの置き場所を確認する。 ・ クラスで前回の避難訓練を振り返り、話し合う。
＜本時＞ ①震度や非常警報等、音をなげびきして聞かせる。 ② ③にそって緊急放送を行う。 【園長】 【保育士】 ④避難のまわりを準備して、安全に避難する。	・ 地震想定音の放送を聞く。 【園長】園中に集まり、ダンゴムシポーズ 【保育士】机や椅子などの下にもぐり、静をもち。 ・ 教師の指示に従う。 【園長】教師と共に避難する。 【保育士】保育室を背に降がる 防災警報をかぶる 非常口に静をかえる。 ・ 監視、点呼	・ 緊急放送音 「避難訓練。地震、津波が近づきました。静かに待ちます。安全な場所まで待ちましょう」 ・ 園長の放送、点呼 ・ どの避難場所が放送をよく聞く。 ・ 地震の揺れは収まりました。先生の静をよく聞いて、園庭に安全に避難しましょう。 ・ 保育室にいる静は、可能であれば、ヘルメット・避難袋・携帯電話・聴いている名前や防災警報等を準備する。 ・ トイレなどを確認して避難（保護室に） ・ 2階（トイレ含む）＝【資材】 ・ 3階トイレ＝【山下（西側）・田中（東側）】 ・ 園庭にクラスの前が急激に揺れ、避難場所が立たず、対応は園長に任せます。 ・ 園庭の非常警報等に留意する。
＜事後＞ 避難訓練を振り返り、避難についての理解を深める。	・ 教師と避難訓練を振り返り、安全避難の仕方について確認する。	・ 避難訓練のよかった点と改善点を話し合う。

① 目 的 香川県防災ナビ（防災・減災）アプリの活用。
 ② ねらい 決断 「おかしも」の約束を復習し、守る。
 ・ 避難音（防災警報）を知り、安全に行動する。
 ・ 地震・津波に対する避難・警報等の対応を復習し、決断が安全に避難できるように働く。
 ・ 地震・津波発生時の対応。子どもの避難の様子を確認し、園庭の確保や子どもへの的確な指示ができるようにする。
 ③ 避難場所 避難場所を復習し、避難音から離れておく
 ④ 活動内容

① 決断は避難の仕方を知り、安全に行動することができたか。
 ・ 静かに放送を聞くことができたか。
 ・ あわてずに静かに避難できたか。
 ・ 教師は決断の発表が適切に行えたか。
 ・ 地震・津波発生時の対応について理解が深まったか。
 ② 今後の 防災ナビを毎日14:30から行います。

【9月の避難訓練（案）】

学校（園）名	丸亀市立本島中学校 丸亀市立本島小学校
派遣内容	災害対応マニュアルや避難訓練計画等への助言
日時	令和4年8月30日（火） 12:45～13:55
場所	丸亀市立本島小・中学校 音楽室
参加者	本島小・中学校教職員11名 本島保育所教職員3名 アドバイザー（香川大学1名、防災士会1名）
内容・日程等	保小中合同職員研修（教職員への指導・助言） 12:45～13:30 本島小・中学校の災害リスク及び危機管理マニュアルについて 13:30～13:55 災害を想定した避難方法について

1 取組における成果

【事前活動】

- 本校は島しょ部にあり、土砂災害警戒区域に位置することから、土砂災害・津波に対しての危機感がある。令和3年度に危機管理マニュアルの見直しを行い、1学期に、地震・津波対応の避難訓練を行った。9月にも保小中合同で避難訓練を行う予定にしており、現在計画中である。

【中心活動】

- 災害の際には、近隣にある本島保育所とも連携しながら対応していく必要があるため、本派遣事業を保小中合同職員研修会として行った。
- 教職員が行った災害対応の質問に対して、防災アドバイザーに答えていただく形で研修を行った。
- 土砂災害警戒区域の指定は大雨時のものであり、地震とは切り離して考えることをご指導いただいた。児童生徒の住居が土砂災害警戒区域にあるかどうかを把握し、保護者と対応を共有しておく必要がある。
- 児童生徒とともに考える時間を設定し、「登校中に地震が起こればどうする？」等、具体的に児童生徒に投げかけることをご指導いただいた。
- 危機管理マニュアルについて、助言をいただいた。災害発生時、避難する前に避難可能かどうか、教職員が校舎内や避難場所を確認することが必要である。誰が確認するのか、避難時に負傷者が発生した場合どうするのか等、細かい点まで確認して修正する必要がある。



【保小中合同職員研修の様子】

【事後活動】

- ご指導をもとに、9月21日に予定している保小中合同避難訓練計画についての見直しを行う。地震発生後、避難する前の安全確認の方法や、負傷者が出た時の対処法等を確認し、より実践的な避難訓練を行う。

2 今後の課題

- 保護者・地域と連携し、具体的に考える必要性を感じた。災害が夜起こった場合、教職員はどのように行動するのか。児童生徒の登校時に起こればどうするのか。本校が避難所となった場合、どのように対応するのか。様々な場合を想定し、保護者・地域と連携しながら、有事に備えたい。

学校（園）名	丸亀市立城東幼稚園
派遣内容	災害リスクにおける対応及び避難経路、避難場所の再確認
日時	令和4年9月2日（金）14：30～16：30
場所	丸亀市立城東幼稚園 会議室
参加者	教職員 5名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	14：30～16：00 危機管理マニュアル等について意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時、城東幼稚園及び校区はどのようなリスクがあるか。 ・災害リスクに対応したマニュアル等になっているか。 ・災害に備えてマニュアルに記載する事項及び共有する事項はあるか。 ・災害に対応するために関係機関とどう連携するか。 16：00～16：30 園内の危険箇所・避難経路のチェック

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 日頃から園生活の中で感じている疑問や不安などを、当日アドバイザーの方々に質問できるように事前に職員間で話し合った。

【中心活動】

- ・ 丸亀市のハザードマップから想定できる園周辺で起こりうる災害について、専門的な立場から具体的に教えていただいた。特に大雨、洪水等で浸水する状況を想定し、避難場所までどのくらいの時間を要するのか把握しておくこと、園の上階に避難する場合、備蓄品（非常食、毛布等）を2階に置いておくこと、保護者への連絡手段の確保など、災害が起こる前に対応していくポイントを知ることができた。
- ・ 本園の防災マニュアルは綿密に計画されていると評価していただいた。主に園長、教頭が中心となり、防災マニュアルを作成、改訂しているが、園の職員全体で見直すことで、自分事として捉え、職員の防災意識が高まることを教えていただいた。また、災害が実際に起こった時の記録を残しておくことで、防災情報を引き継ぐのに役立つことも分かった。
- ・ 園内の環境をアドバイザーの方と一緒に巡視した。普段見慣れている園内だが、危険場所や改善点を共通理解することができた。特に廊下など、避難経路になっている箇所には物をできるだけおこな



【防災アドバイザーとの協議】



【園内の危険箇所・避難経路のチェック】

いこと、天井に設置されている吊り下げ式のスクリーンなど、高所にあり古くて使用していないものは撤去するなど、少しずつできることから改善していきたいと感じた。

【事後活動】

- ・ 当日参考資料としていただいた逃げキット（マイ・タイムライン検討ツール）を活用して、防災が起こった時に余裕をもって安全に避難するためのマイ・タイムライン（いつ、何をするのか）をつくり、いざという時に慌てず、どのような行動をとればよいのかを職員間で再確認した。

2 今後の課題

- ・ 園周辺との連携は必要不可欠だのご指導いただいた。災害時だけでなく、日頃から少しずつ地域との連携のパイプを強めていき、お互いの顔が見える関係づくりに努め、防災へのチーム体制づくりを進めていきたい。
- ・ 送られてくる情報を待っているだけでなく、自分たちで情報を取りに行く姿勢が大切だと思った。情報通信機器を利用して、雨雲レーダーやライブカメラなどにアクセスするなど、日頃から情報を収集し、迅速に対応できるようにしていきたい。

学校（園）名	学校法人 百華学園 太田百華幼稚園
派遣内容	幼稚園危機管理マニュアルへの助言 避難訓練について
日時	令和4年11月30日（水）9：50～11：50
場所	太田百華幼稚園 会議室
参加者	教職員3名 アドバイザー 2名（香川大学1名、防災士会1名）
内容・日程等	9：50～10：50 防災計画、危機管理マニュアルに対する助言 10：50～11：50 避難訓練について 指導・助言 太田地区における防災に対する配慮点等

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 教職員間で、防災計画、危機管理マニュアルを再度見直した。
- ・ 後日行う避難訓練について、計画を作成し、教職員が各自の動きや分担を再確認し、課題や疑問点について話し合った。

【中心活動】

- ① 幼稚園からの説明
- ② 防災アドバイザーからの助言
 - ・ 危機管理マニュアルの防災の部分の確認
 - ・ 地域と行う避難訓練の提示
 - ・ 地区の危険箇所の確認
 - ・ 避難訓練についての助言
 - 垂直避難の提示
 - 避難所について
- ③ 質疑応答

【事後活動】

- ・ 指導、助言をいただいた危機管理マニュアルの修正を行なった。
- ・ 防災士を招いて 避難訓練を行なった。



【避難訓練の様子】



【アドバイザーによる講評の様子】

地震・火災避難訓練計画

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1 実施日時 | 令和4年12月16日（金） 10：00から |
| 2 地震・火災想定 | 震度4・1階給湯室から出火 |
| 3 園児の想定 | 各クラスで保育中 |
| 4 参加人数 | 園児200名 職員20名 |
| 5 訓練の種類 | 地震発生後、火災発生時の避難訓練 |
| 6 避難場所 | 各クラス（机の下）→幼稚園運動場 |
| 7 ねらい | ◎地震発生時の放送を聞き、安全に避難すること |

	幼児の活動	指導内容・援助ポイント
事前	<ul style="list-style-type: none"> 地震について話し合う 安全な避難の仕方について話し合う 紙芝居他を使って 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの避難訓練等の経験を思い出させ、どうすればよいか子どもと一緒に考えていく 「おはしも」の約束 おさない、走らない、しゃべらない、もどらない
当日	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞く 地震発生 園内放送を聞く 防災座布団をかぶる 机の下に潜る 火災発生 園内放送を聞く 運動場へ避難開始 園長先生の話聞く 防災士の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 遊んでいる子どもたちに中止するように伝え、静かに聞くように言葉をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地震がおきました。先生の話聞いて揺れが止まるまで、机の下にもぐりましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 防災座布団をかぶり、落ち着いて避難するように知らせ、机の下等に誘導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1階給湯室より出火です。先生と一緒に運動場に避難しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 避難経路の安全確認 残留確認 ・非常持ち出し 点呼 報告 <p>*反省点の話し合い</p>

【地震・火災避難訓練計画】

2 今後の課題

- ・ 本事業を活用して、再度危機管理マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。
- ・ 教職員間の連絡方法の検討 トランシーバー等の導入の検討
- ・ 垂直避難について
- ・ 地域と連携した避難訓練について

Ⅱ 各学校（園）の取組み

2 様々な想定や地域の防災関係機関と連携した 実効性のある避難訓練への助言

学校（園）名	三豊市立詫間中学校
派遣内容	隣接する須田保育所との合同避難訓練について、より実効性のあるものとなるような指導・助言
日時	令和4年6月24日（金）13：25～15：50
場所	三豊市立詫間中学校、須田保育所、寶林寺での一般道路、寶林寺駐車場
参加者	生徒・児童・教職員 約300名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名） 三豊市教育委員会 1名、三豊市防災指導員 2名、三豊消防署 3名
内容・日程等	13：20～14：45 避難訓練 14：55～15：15 振り返り 15：20～15：50 指導・助言

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 昨年度から始めた避難訓練であるが、昨年度の反省事項を生かしてより実効性のある訓練計画を立案することができた。
- ・ 雨天時の指導計画を作成することができた。
- ・ 合同で行う保育所とは、計画ができた段階から入念な打ち合わせを行うことができた。

【中心活動】

- ① 通報訓練…事前に生徒には水筒とタオルをナップに入れさせておく。それを持って避難する。

13：20

直前に、通報訓練する旨を三観広域消防本部（24-0119）に連絡し、予定時刻（13：25）に「119」で通報する。その際、「通報訓練」であることを告げてから通報内容を伝える。

- ① 初期対応（揺れたら）「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる。

13：27

緊急放送①…一般放送で実施

「訓練による緊急放送。地震が発生しました。身を守りなさい」（2回繰り返す）

- ・ 机の下に入り、落下物から頭部や身体を守る。その際、机の脚をしっかり手で持つ。
- ・ 学級担任は、入り口の戸を開けて、出口を確保する。



【机の下への避難の様子】

- ② 第2次対応（揺れが収まったら）建物から離れて、より安全な場所へ移動する。

13：29

緊急放送②

「訓練による緊急放送。ただちに玄関前に避難しなさい」（2回繰り返す）

- ・ 学級担任は出席簿を持ち先頭で誘導。ヘルメットを着用し、下の経路で玄関前へ。
- ※ 事前に「3年レスキュー隊」に5歳児



【建物からの避難の様子】

を担当することを周知しておく。

- ・ **HOT**(「話さない」「押さない」「(階段は)手摺りを持つ」)を徹底させる。(※事前指導)

C棟2階(3年)は、生徒玄関から(下靴で)玄関前へ
レスキュー隊は武道館前を通って技術室横へ
2階(1年)は、2階生徒玄関から(下靴で) 玄関前へ
3階(2年)は、東階段を2階まで下りて、(下靴で) 玄関前へ

※ 3年生レスキュー隊は、5歳児9名を二人一組になって、避難引率する。その際には、保育所(クラス担任)の指示で担当する子供を確認し、すぐに早歩きで戻って整列する。

- ・ 人員報告…学級委員 → 学級担任 → 学年主任 → 教頭 → 校長 の順にする。

Aは、緊急放送②と同時に、避難経路の道路状況を確認するため、自転車で出発。

[携帯電話・トランシーバー・ハンドマイクを携行]
→ 「寶林寺」到着後すぐに校長へ状況報告

【生徒の整列完了の時機を見て】**B**は、避難経路の状況確認のために自転車で出発。

[携帯電話・トランシーバー・ハンドマイクを携行]
→ 「寶林寺」到着後すぐに校長へ状況報告



【一次避難完了】

13:45 人員点呼までの講評 → 次の行動について説明

- ③ 第3次対応 より高く、安全な場所へ移動する。

【校長の合図で】1年1組から2列で出発。続いて **1-2** → **2-1** → **3-3**

- ・ 学級担任が先頭で、寶林寺駐車場まで誘導する。

※ 園児も最後まで参加する。(ゆっくり歩かずに早歩きで)

- ・ 到着後、学級委員長 → 学級担任 → 学年主任 → 教頭 → 校長の順に人員報告する。



【園児との合同避難の様子】

14:20 人員点呼までの講評

→ 保護者へ引き渡すまでの動きと次の行動について説明

- ④ 学校へ移動

- ・ 学級担任が先頭で誘導する。(3-3先頭からスタート)

- ⑤ 玄関前に整列

- ・ 到着後、学級委員長 → 学級担任 → 学年主任 → 教頭 → 校長の順に人員報告する。

14:45 避難訓練全体についての講評



【寶林寺での指導の様子】



【全体についての講評の様子】

【事後活動】

- ・ その日には各クラスにて振り返り活動を行った。
- ・ 2・3学期に行う避難訓練では、今回の指導・助言を生かして訓練を実施する予定である。

2 今後の課題

- ・ HOTのT（手摺り）ができていなかった。余震がきたら危ない。
- ・ 訓練のスタート時に、実際の音（地震速報等）を使った方がリアルになる。
- ・ 2分間の静寂も実際にはありえないので、効果音を活用すると良い。おそらく、放送器具は使えないので、先生方が「地震だ〜」などの声を出す訓練が重要である。
- ・ 放送（指示）がなくても、先生の判断により避難させることが重要である。
- ・ 寶林寺の上にはため池がある。もしかすると決壊するかもしれないので、今日の道がベストとは限らない。複数のルートを確認しておくことが大切である。（年ごとにルートを変えるのも良いかも。）
- ・ 災害用伝言ダイヤル「171」の紹介。
- ・ 先生方の靴箱が固定されていないので、倒れる危険性がある。
- ・ 教室に置いてある時間割黑板や本棚が、地震の際には飛んできて凶器になる可能性がある。
- ・ 園児を待たずに避難することも考えられる。
- ・ 放送設備が不十分な施設での連絡方法を考えておく必要がある。（先生方は携帯を必ず持参する等）
- ・ 避難経路の確保のため、ドアは完全開放すること。
- ・ 窓側の席は注意すること。
- ・ 廊下の曲がり角や階段で一部生徒が走っていた。
- ・ 移動中も電柱、ブロック、木の倒壊の恐れがあるので、ヘルメットは被った方が良い。

学校（園）名	琴平町立象郷小学校
派遣内容	より実践的な内容で実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和4年9月1日（木） 15：15～16：30 令和4年9月28日（水） 10：00～11：00
場所	象郷小学校研究会議室 運動場 特別教室
参加者	児童105名 教職員20名 北こども園園児34名 職員7名 琴平町職員2名 消防団5名 アドバイザー 4名（技術士会 3名、防災士会 1名）
内容・日程等	9月1日 避難訓練計画等協議 9月28日 避難訓練

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 学校防災アドバイザーの助言を基に、避難訓練計画を練り、震度6弱で不測の事態発生時を想定した、参加者に負荷のかかるものにした。
- ・ 職員への周知の際、避難状況の設定・安全確認の重要性・避難経路の確保の仕方などについて確認し、児童及び教職員の意識のもち方について共通理解した。
- ・ 校舎内の被害の設定について担当者で相談し、実際に起こりうる状況を準備した。

【中心活動】

- ・ 震度6弱の地震により、壁や柱の倒壊・割れたガラスの散乱・通常の通路の封鎖など、環境面の負荷をかけたことにより、児童が非日常の雰囲気の中で訓練を真剣に行う姿が見られた。
- ・ 放送設備が使えなくなった設定で、ハンドマイクによる情報伝達を行った。事前に聞こえない場合もあることを周知しておいたため、本部からの情報伝達が不十分であっても教師間で安全確認や避難経路を伝え合い、適切な避難行動ができた。
- ・ 起震車体験活動を取り入れたことで、児童は、南海トラフを含めた地震に対する備えや心構えについて自分事として考えることができた。
- ・ 満濃池決壊による浸水を想定した訓練を同時に行い、地震による二次被害の発生やその際の避難行動について理解できた。児童は、教師の指示に従って、落ち着いた行動がとれた。また、高学年は園児に付き添って避難することで、年長者としての役割も果たした。



【倒れた靴箱】



【散乱した窓ガラスの破片】



【避難する児童】



【アドバイザーによる講評】

【事後活動】

- ・ 避難訓練後、児童及び職員双方の「ふりかえり」を行い、紙面で成果と課題を共有した。内容を踏まえて、避難行動を取る際の留意点や今後の改善点を話し合った。
- ・ 4年社会科「自然災害にそなえるまちづくり」と関連させ、授業後に町企画防災課の職員を招いて出張授業を行った。児童は自然災害についてより理解を深めることができた。

2 今後の課題

- ・ アドバイザーの助言と避難訓練の成果と課題を基にマニュアルを改善する。そして、内容について職員間で協議及び共通理解していくことで、より実践的なものにしていく。
- ・ 消防署や町防災企画課と連携し、より協働体制を強めていく。

R4 地震・水害避難訓練ふりかえり

○避難行動の際に気を付けたこと(児童及び担当について)

<事前>

- ・ 1年生は初めてなので、気持ちは面・行動面の指導をした。

<担当>

- ・ 誘導係として、危険箇所の呼びかけを繰り返した(大きな声で)。
- <声掛け(内容)>
- ・ 避難経路が変更になったり、落下したりする場合もあるので注意して避難する。
- ・ 避難経路が変更になっても、しゃべらず落ち着いて行動する。
- ・ 「お、ほ、し、も」の約束を守って行動する。
- ・ 先生の指示が聞こえるようにしゃべらず行動する。

<誘導>

- ・ 安全確認をする。
- ・ 児童の様子を見ながら。
- ・ 臨機応変に的確な指示を出す。

<水害避難時>

- ・ 6年女子、男子、5年男子、女子の順に行くように指示をして、こども園の幼児を一人ずつ組み合わせた。先頭に行く職員、幼児とペアを作る職員、最後尾の職員と手分けをした。

<個別の支援>

- ・ 児童が安心して臨めるように事前にシミュレーションを行った。
- ・ 安心して行動できるように寄り添った。(手をつなぐ)
- ・ ふり返りを大切にしたり。
- ・ 人流の妨げにならないように廊下・階段を広く位置に配慮した。
- ・ 教室移動時とは異なる傾向を確認できた。

○良かったこと

<全般>

- ・ 全教職員、全児童がスムーズに避難することができていた。

<教職員>

- ・ 教頭先生を中心に、先生方が役割分担を基にして素早く動く姿を見て感動した。
- ・ 避難経路を考えながら実施できた。
- ・ 教員間で連携をとりながら指示を出せた。

<児童>

- ・ 一人一人が自分事として地震について考えることができた。
- ・ 「お、ほ、し、も」がよく守れた。
- ・ トイレや特別教室など教室にいなかったときも、慌てずに、しゃべることができた。
- ・ 避難経路に従って、落ち着いて素早く避難できた。
- ・ 避難経路が塞がっているときも、子どもたちは冷静に対応できていた。

【教職員ふりかえり (一部)】

ひなん訓練のふりかえり
(4)年 名前

1. ○△×でチェックしよう。

- ①すばやくつくえの下にひなんできた。(○)
- ②安全なひなん経路について、自分なりに考えることができた。(○)
- ③安全に気を付けながら、静かにひなんできた。(○)
- ④しんけんに取り組むことができた。(○)

2. 感想を 書きましょう。

じっさいに大きなじしんを体験したことはない
のでよくわからないけど、さいごに先生たちが
南がいたつちのじしんをよそくしてやてものはす
こくゆれていたので、トラップがころひそいで
した。じっさいにみたら、たいへん安全なところ
にひなんしました。

ひなんくんれんのふりかえり
(2)ねん なまえ

1. ○△×でチェックしよう。

- ①すばやく つくえの下に ひなんできた。(○)
- ②せんせいの しびに したがって、しずかに ひなんできた。(○)
- ③しんけんに くんれんに さんかできた。(○)

2. かんそうを かきましよう。

いさといつときと、がくるとしたら、あついで
じしんがでてきたら、なみそくるから、たかい
ところや、あんな人は、はし、いって、自分
のみをまもりたい。

【児童ふりかえり】

学校（園）名	認定こども園 香川短期大学附属幼稚園
派遣内容	津波の避難訓練観察、保護者への引き渡し訓練の助言 災害時、災害リスクに対する危機管理マニュアルの見直し
日時	令和4年9月1日 9：50～11：00
場所	園長室（マニュアル指導）、訓練（各保育室、ホール、なかよしルーム）
参加者	園児 175名、教職員 20名、保護者 175名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	9：50～10：30 危機管理マニュアルの内容の評価と助言 10：30～11：00 避難訓練及び引き渡し訓練後、実践内容の助言

1 取組における成果

【事前活動】

- 引き渡し訓練の参加有無、通園バスでの引き渡し訓練参加有無についての保護者アンケートをとり、園児が安心して訓練できるようにする。
- 教職員間で、訓練についての内容や園児対応について話し合い、各クラスのねらいを確認する。
- バスの運転手と、バス乗車中の訓練について内容を話し合う。

【中心活動】

10：30	各クラスの帰りの集いで、地震と津波の話聞く。『おはしもち』の約束をする。
10：45	地震訓練の放送をする。 放送後、担任の指示を聞いて1階ホールまたは2階なかよしルームに避難する。 園バスで帰宅途中の園児も、バス添乗職員の話聞いて、行動する。
11：00	災害時引き渡しカードと引き換えにお子様を渡す。

- アドバイザーから助言を受ける。
 - ・ 園児を引き渡すことだけでなく、他のところ（怪我・子どもの様子・環境など）にも目を向ける。
 - ・ ストッパーが付いている道具や楽器・棚は全てストッパーをして動かないようにする。
 - ・ 地震が起こった時は、ガラスが割れたり、破片があったりするので、足を怪我しないために子ども保護者も靴を脱がずに移動する。（日頃から靴を脱がないように声かけしておく）
 - ・ 園だけが備えるのではなく、保護者も普段から災害に備えるという意識が大事。「大雨で警報が出そうな天候だ」などと、保護者も日頃から災害を想定して、子どもを災害から守るための判断を保護者に委ねることも大切である。
 - ・ 保育室出入り口のサッシ扉が1か所しか開いてない保育室があったので、安全確保のために2か所開けるようにした方がよい。



【1階ホールに避難する園児】



【2階なかよしルームで避難する園児】

【事後活動】

- ・ 園内の環境を見直し、転倒や落下の危険があるもの（棚、水槽、楽器など）や、出入り口の確保（サッシ扉を2か所開けるなど）について安全対策を実地・検討する。
- ・ 訓練を園児の引き渡しありきで考えるのではなく、まずは子どもの命を守り安全を確保して、状況に合わせた対応を心がけることを大切にする。
- ・ 教職員の命を一番に守ることを大切にというご指導いただいた。職員の家庭の災害の状況を確認してもらうことも念頭に置く。

2 今後の課題

- 災害リスクに対応したマニュアルになるよう、再度、自園の危機管理マニュアルを見直し、加筆修正をしていくと共に、地域の防災関係者との連携をしていく。
- 防災は日頃から教職員全員が意識をして、見直し、取り込んでいくことが大切。園の職員がマニュアルをよく読み、イメージできるよう、日頃からの訓練を大事にして、経験を積み重ねる。
- 園児は実際の地震速報の音に慣れていくことが大切。地震防災訓練のアプリなどを活用していく。
- 「四国防災八十八話マップ」をいただいたので、園児に合わせて活用したり、保護者にも周知したりして、防災を意識して学ぶきっかけとなるよう利用していきたい。

学校（園）名	認定こども園 香川短期大学附属幼稚園
派遣内容	2回目 総合避難訓練（火災想定）に関する助言等
日時	令和4年11月14日 9:50～11:00
場所	総合避難訓練（各保育室、園庭）、避難訓練後の話し合い（園長室）
参加者	園児 180名、教職員20名、実習生12名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	9:50～10:30 通報訓練で、消防車出動をお願いする。 園児は、運動場に避難する。 消防署の方の話を聞く。消防車を見学する。 10:30～11:00 避難訓練における指導と課題

1 取組における成果

【事前活動】

- 前日、クラスごとに火災についての話を聞き、園内の消火器の場所や非常口のマークを確認する。
- 教職員間で、避難訓練の様々なケースを想定して、避難訓練の内容を見直し、ねらいを確認する。

【中心活動】

10:00	通報訓練、火災の放送を聞いて、園児は運動場に避難する。 <ul style="list-style-type: none"> ・園長、消防士の話を聞く。 ・消火訓練（教諭が水消火器を使用して、消火活動を実践する） ・消防車見学
-------	--



【火災の放送を聞いて園庭に避難する園児】



【消防士が園児に分かりやすく伝える】
～変身ポーズ「火事を起こさないんじゃ～」



【消火器の話を聞き、消火器の使い方を知る】



【教諭が実際に消火活動をする】

○11:00 アドバイザーから助言を受ける。

- ・ 窓を閉めるより、まず子どもを避難させることが大事。避難場所は、風向きによって考える。
- ・ 「かじだ〜」「友だちが怪我した〜」と大きな声で大人に知らせる訓練を日頃からしておく。
- ・ 実際に火事が起こった時は、道路の消火栓を使用するという消防士からの話があり、園庭が水浸しになるため、園庭に避難することは不可能だと分かった。二次避難の場所を考える必要がある。
- ・ 普段ないことが重なった時に、事故などが起こる可能性があるなので、手間を惜しまず、普段ないことに対応していけるようにチームで解決できるように共通理解を深めていく。

【事後活動】

- 訓練がマンネリ化しないように、ブラインド訓練をして、人数確認は、日頃から先生も子どもも意識できるような関係性をつくっておく。「〇〇ちゃんがない」と先生と子どもとでダブルチェックができるようにする。

2 今後の課題

- 大規模火災の時は、近隣の坂出消防署に頼ることができない。宇多津町消防団しか動けないので、災害に備えて地域の関係機関とどのように連携を考えていく。また、園だけの避難訓練ではなく、地域と連携した訓練についても考えていきたい。
- 避難場所（第2避難場所）や避難経路の見直しをして、誰が見ても動けるようなマニュアルを作成していきたい。
- 保護者の防災意識を高めるために、毎月実施している避難訓練のねらいや様子をドキュメンテーションで知らせていき、今後も共に考えを出し合って、コミュニケーションをとっていけるような連携の工夫をしていきたい。

学校（園）名	高松市立川東小学校
派遣内容	地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和4年9月7日（水） 9：30～11：15
場所	各教室及び体育館、応接室
参加者	児童 約 289名 教職員 約25名 クラス数 14クラス（特別支援学級 2クラス）
内容・日程等	9：30～10：15 2校時 避難訓練 10：45～11：30 3校時 協議・助言・指導

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 事前指導（朝のTV放送→学級での指導）が効果的で心構えができた。事前のTV放送でのリアルな映像や、実際の地震はいつ起こるかわからないという点も自分事として真剣に避難行動できるきっかけとなった。

【中心活動】

- ・ イレギュラーなことへの対応として、事前計画とはちがう急な避難経路の変更を行った。池の決壊より3階以上への2次避難を行った。今回はまさにその突発的な事象へ臨機応変な対応力や判断力が問われる訓練であり、実際も教師の判断力が必要であると再認識できた。
- ・ 6月の火災対応の避難訓練よりも迅速で確実な避難ができた。教職員と児童の安全意識が向上している。
- ・ けがしている児童は、その時に必ず担任・学年団・養護教諭等が確認し、安全に避難できるように手だてを講じておく必要を感じた。また、発災時に状況に応じてトランシーバーを活用できるよう準備する。

【事後活動】

- ・ 緊急地震速報への対応、シェイクアウト訓練の活用、学校の建物の土壌や気候の特徴、トランシーバーの有効性等や機器の違いなど、専門的見地から多くのアドバイスをいただき、防災アドバイザーの来校・指導が学校の危機管理や子どもへの防災教育の充実・見直しに向けて効果的であった。

2 今後の課題

- ・ 児童への事前学習や防災教育のさらなる充実。
- ・ 本事業を活用し、再度マニュアルの見直しや検討を行い、今後の避難行動や防災学習の修正等につなげていくこと。
- ・ トランシーバーの使用は効果的であったし、だいぶ慣れてきた。今後も校外学習等で普段から活用していく。また、学年末にはすべての機器の電池交換を確実にを行う。



【教室の様子】



【二次避難の様子】

学校（園）名	高松市立木太南小学校
派遣内容	幼小合同避難訓練での助言 危機管理マニュアル等の見直し
日時	令和4年9月16日（金）9：55～10：15
場所	木太南小学校 校舎内
参加者	児童 588名、園児 59名、教職員 39名、幼稚園職員 11名 アドバイザー 3名（技術士会 2名、防災士会 1名）
内容・日程等	9：55～10：15 避難訓練 10：15～11：00 避難訓練等への助言

1 取組における成果

【事前活動】

7月25日（月）に小学校教職員（管理職含め5名）と幼稚園職員（1名）が本校に集まり、学校防災アドバイザーの方から危機管理マニュアルの見直し、幼小合同避難訓練（地震・津波）の計画についてアドバイスをいただいた。（事前に危機管理マニュアルと避難訓練の実施要項をアドバイザーの方に送付）避難訓練までにトランシーバーの確認を行った。

【中心活動】

危機管理マニュアルの見直しでは、実際の災害を踏まえたものになっているか、という見直しのポイントをいただいた。本校の場合、津波浸水想定区域ではなく、地震後のため池の決壊による浸水が想定される。登下校時に地震が起こった場合に備えて、自宅と学校の間地点を保護者と一緒に確認しておき、近い方へ避難することなど、木太地区の土地の成り立ちやハザードマップなどの資料を示していただき詳しくアドバイスいただいた。また、避難所計画については、トイレは、男女で離すことや高齢者と障害者スペースを区別すること、車両の出入りは、一方通行にすることなど、具体的なアドバイスをいただいた。特に、校区の自主防災担当との連携が必要となる。

幼小合同避難訓練では、地震発生（震度6弱以上）後、津波警報発令という想定で、小学生は、3、4階に避難し、幼稚園児は、2次避難場所の本校3階に避難してくる訓練を行った。幼稚園児は、園舎から5分で到着することができ、大変静かに避難できた。小学生についても落ち着いて行動できていた。学校防災アドバイザーの方には、避難の様子について講評いただいた。児童に対しては、落ち着いて避難できていたことを褒めていただき、登下校中もどうすれば身の安全を守れるかを考えることの大切さについてお話して下さった。職員に対しては、避難状況を見童に伝えることで、安心できることや常に学校の側を流れる川や池の水位を気にかけておくこと、不慣れなトランシーバーを使うよりも確実に伝わる声掛けをすることなどご指導をいただいた。



【3階へ避難する1年生】

【事後活動】

本校の6年生は、総合的な学習の時間に、防災について学習している。自分たちが調査したり調べたりしたことや学校防災アドバイザーの方から教えていただいたことをマップに表したり、動画にまとめたりした。

2 今後の課題

危機管理マニュアルの修正および避難訓練では、事前の内容とは違う内容を織り込み災害時の対応に役立てること、児童や幼稚園児の保護者への引き渡しにどれだけの時間がかかるのか、引き渡す場所などについても検討することが今後の課題である。

学校（園）名	丸亀市立本島中学校 丸亀市立本島小学校
派遣内容	実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和4年9月21日（水） 11：25～12：15
場所	丸亀市立本島小・中学校 運動場 屋上 音楽室
参加者	本島小学校児童3名、本島中学校生徒4名、本島保育所幼児2名 本島小・中学校教職員14名、本島保育所教職員3名 アドバイザー（香川大学1名、防災士会1名）
内容・日程等	11：25～11：50 保小中合同避難訓練の参観、講評 11：50～12：15 保小中教員への避難訓練等の助言

1 取組における成果

【事前活動】

- 8月30日に、学校防災アドバイザー派遣事業で保小中合同職員研修会を行い、災害対応と避難訓練に対して指導・助言をいただいた。ご指導のもとに、避難訓練計画の見直しを行い、次の2点を避難訓練で行うことを確認した。

- ① 緊急地震速報後、避難可能かどうかを教員が確かめ、トランシーバーを用いて連絡する。
- ② 負傷者を想定し、担架を使って2階に運ぶ訓練をする。

【中心活動】

- 保小中合同避難訓練を行った。地震発生後、運動場に避難し、その後、津波を想定して屋上に再避難した。避難訓練に対して、次のような講評をいただいた。

- ① スムーズに避難できており、大変良かった。
- ② 実際の地震の揺れは1回でなく、何度も来る。足元や天井等に気を配りながら避難する。
- ③ 幼い子等、周りに困っている人がいないかを確認する。

- 保小中教員に対しては、次のように指導・助言をいただいた。

- ① 避難可能かどうかを確認し、トランシーバーを用いて連絡しあったのが良い。多くの機会にトランシーバーを使い、いつでも誰でも使えるようにしておく。
- ② 負傷者を想定した訓練が良かった。担架を持って階段を上がる様子を児童生徒に見せておくと、頭を上にして上がればよい等のことが、実際に分かったのではないかと。
- ③ 備蓄品や教職員用のヘルメットを準備するとよい。教職員も自分の安全を確保することで、その後の避難等をスムーズに行うことができる。

【事後活動】

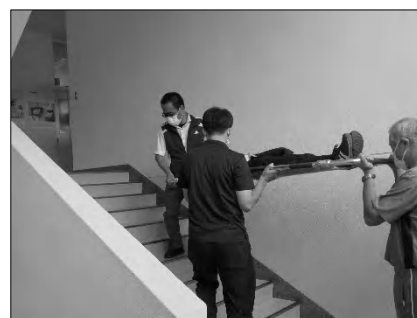
- 備蓄品・教職員用のヘルメット・特別教室用のヘルメット等、何が必要かを考え、準備する。また、児童生徒、教職員が、地域の方や保護者とともに、防災について考える機会を持ちたい。

2 今後の課題

- 地震は、いつ、どこで起こるか分からない。教職員も児童生徒も、どうすればよいかを自分で考えて行動できるようにしたい。そのために、考える機会を折にふれ、設定する。



【保小中合同避難訓練の様子】



【負傷者を運ぶ様子】

学校（園）名	香川県立高松養護学校
派遣内容	より実践的な内容で実効性の高い避難訓練等への助言
日時	令和4年10月27日（木）10：00～11：30
場所	香川県立高松養護学校 全校舎 玄関前ロータリー 会議室
参加者	児童生徒 60名 教職員 110名 高松南消防署 8名 アドバイザー 4名（技術士会 2名、防災士会 2名）
内容・日程等	10：00～10：35 防災避難訓練 10：45～11：30 避難訓練等についての助言、意見交換会

1 取組における成果

【事前活動】

今年度は一昨年に続いて「学校防災アドバイザー派遣事業」が適用された。6月の第1回目の避難訓練では、一昨年の助言を生かして、本校の実態に即した「分散待機型」の避難訓練を行った。この訓練を見ていただくことはできなかったが、職員から上がった多くの課題に対してご指導いただくことができ、今回の第2回目の避難訓練に具体的な改善策として生かすことができた。また、避難訓練のシナリオ作りの段階で、ご助言をいただくことができ、本部からの情報発信、火災発生からの情報伝達の仕方、負傷者のけがの程度の伝え方など、迅速かつ適切な対応ができるような内容をシナリオの中に組み込むことができた。全職員に対して職員会議で避難訓練の流れを説明し、避難経路と各自の役割について確認した。

【中心活動】

今回の避難訓練の主なポイント

- ・ 震度6弱の地震が発生し、停電および火災が起きるという想定で行う。地震発生後に放送機器は使えないと想定し、ハンドマイクを使用する。
- ・ 訓練の時刻は周知せず、児童生徒および職員は緊急地震速報が流れた後、直ちに身を守る行動をとる。
- ・ 校内にある防煙シャッターを全て閉めて通行止めになるところを作り、それ以外の経路を通過して避難場所に集合する。
- ・ 小学部・中学部・高等部からそれぞれ1名ずつ負傷者が出たという想定で、救助および救護の訓練を行う。
- ・ 各班からの報告や安否確認の報告の仕方を統一し、本部が迅速かつ正確に情報処理ができるようにする。
- ・ ホワイトボードを4枚準備し、安否確認状況、負傷者の状況、建物の損壊状況、発生した出来事をそれぞれに書き分け、職員が状況を共有できるようにする。

【事後活動】

避難訓練終了後に、学校防災アドバイザーと高松南消防署員、学校代表者で意見交換会を開き、避難訓練についての助言をいただいた。防煙シャッターを閉めたことで、普段使っているルートが

使えないだけでなく、声を通らず、情報が伝わらないことが分かり、実際に行ってみることで分かることがあることに気が付けた。また、災害の状況や火災の発生場所によって、どの経路を通過して避難をするのか、平日頃から複数の避難経路を考えておくことの大切さを改めて感じた。消防からは、本校の防火システムは充実しているのに、火災が発生しても落ち着いて行動することの大切さや、負傷者の救急搬送についてのご指導をいただいた。今後は、意見交換会の内容や職員アンケートをまとめて、より実践的な避難訓練が行えるようにしたいと考えている。

2 今後の課題

今回の避難訓練でも多くの課題が見つかった。特に情報に関する課題が多く挙げられている。シナリオを周知しての訓練でも、伝達ミスや解釈の違いなどによる情報の行き違いが起きているので、実際に災害が起こった場合には、さらに混乱して情報のミスが起こることが容易に予想される。今後はいかに正確かつ迅速に情報伝達を行っていくのか、職員で考えていきたい。

また、本校は県下唯一の肢体不自由児特別支援学校で、児童生徒の8割以上が車いすを利用している。このことを踏まえて、転倒物や移動物、落下物から児童生徒の身の安全を守るよう、対処していきたいと考えている。

【主な課題】

- ・ 停電時の情報の伝え方
- ・ 本部と各班の情報伝達の仕方
- ・ 情報の優先順位の付け方
- ・ 報告や安否情報のあげ方
- ・ 深刻なけがを負った負傷者の対処の仕方
- ・ 救護場所の設置場所



【訓練後アドバイザーからの講評】




【アドバイザーからの質問に答える生徒】

令和4年度 第2回 防災避難訓練実施計画（案）

香川県立高松養護学校

- 1 日 時 令和4年10月27日（木） 時刻は周知しない（雨天実施）
- 2 目 的 (1) 地震とそれに伴う火災を想定した避難訓練を実施することで、防災意識を高め、実際の緊急事態に備える。
 (2) 「消防計画」「安全対策マニュアル」の内容に基づき、役割分担等を確認する。
 (3) 教職員が連携・協力し、児童生徒を安全に避難させる訓練を積む。
- 3 対 象 本校児童生徒、教職員
- 4 内 容 (1) 地震の規模：震度6弱 火災の発生と停電を想定。
 (2) 避難場所および救護場所：火災発生場所によって決定する。
 (3) 進行計画

時 間	防災本部	児童生徒・教職員
0:00 緊急地震 速報の発表	緊急地震速報の練習放送 緊急放送1：教頭 「大きな揺れがきます。直ちに身を守る行動をとってください。」 (繰り返す)	○授業担当者：安全確保 ・窓、壁際、危険物から離れる。 ・ヘルメット、防災頭巾等で頭部を守る。 (特別教室の防災頭巾 ：消防計画書P13参照) ・机等の下にもぐり、頭部を守る。 ・可能であれば、出入り口の扉を開ける。  防災頭巾設置マーク
25秒後 地震発生	地震のシミュレーション音 (2分間)	シェイクアウト訓練 ①身を低くする ②頭を守る ③動かない ○授業担当者：安全確保 ・落下物、移動物、転倒物から身を守る。 ・児童生徒への言葉かけ。 ・移動中の教員は、その場で身の安全を守る。
0:02 2分後 大きな揺れ の収まり 待機指示	防災本部設置（事務室） 本部長：校長 副本部長：教頭 本部係：教頭、事務部長 教務主任 緊急放送2：教頭 (ハンドマイク) 「緊急放送、大きな地震がありました。次の指示があるまで安全に注意して待機してください。」(繰り返す)	○授業担当者：状況確認 ・児童生徒への言葉かけ。 ・負傷者の有無を確認をする。 ・室内の状況を把握する。 ○ハンドマイクでは声が届かない場所もあるので、林教頭の言葉が聞こえた人は大声で奥（各棟の端）へと伝える。 * 自立活動室、体育館、さくら棟音楽室は特に情報が伝わりにくいので心に留めておく。 * ハンドマイクは下記集合場所に設置

	<p>情報収集・状況把握： 教頭、事務部長 ・余震等の地震情報 ・校舎の損壊、火災等の状況 ・負傷者、行方不明者の有無 ↓ 情報を本部長、副部長に 伝達 ・ホワイトボードに情報を記載</p>	<p>○部主事と空き時間の教員は所属学部の所定場所に集合する。 各学部で連絡係を決める。 集合場所 小学部 5-1教室前 中学部 中棟東側 高等部 さくら棟階段下 ⇒打ち合わせ後、<u>連絡係</u>は本部へ</p>
<p>0:05 火災発生</p>	<p>給食棟で火災発生</p>	<p>○火災発見者は火災報知機を押す。 火災発生場所近くにいる人は声を出して周囲に知らせる。</p>
<p>0:05 避難開始</p>	<p>火災報知器の音声が流れる 「火事です。火事です。給食棟で火災が発生しました。直ちに避難してください。」</p> <p>緊急放送3：教頭 「緊急放送。給食棟で火災が発生。初期消火班は直ちに消火活動を行ってください。児童生徒は、先生の指示に従い、玄関前ロータリーへ避難してください。」(繰り返し)</p> <p>「給食棟で火災が発生。現在、初期消火活動中です。児童生徒は、先生の指示に従い、玄関前ロータリーへ避難してください。」(繰り返し)</p> <p>初期消火を行っているが火勢が衰えないため119番訓練通報：事務部長</p> <p>役割分担：消防計画書P11参照</p>	<p>○避難開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則「お」「は」「し」「も」で必要な言葉かけは行う。 ・エレベーター使用不可 ・防煙シャッターが作動して通れない場所がある。 <ul style="list-style-type: none"> * 防煙シャッター設置場所 南棟とユーカリ棟の間 中棟東側 北棟とさくら棟の間 自活室と体育館の間 ・可能な限り、窓や扉を閉める。 <p>○避難誘導係 (部主事、学年主任、自立活動室長、寄宿舎指導員長)を中心に行う。 : 児童生徒の避難誘導指揮、各棟の最終確認</p> <p>○寄宿舎指導員 消火係 (2名): 初期消火 保健室の支援 (1名): AEDを届ける。</p> <p>○救護班：非常時持ち出し品等の搬出および救護場所の設置 (SB西側) 養護教諭 (2名)、学校看護師 (1名) 寄宿舎指導員 (1名)</p> <p>○高等部職員 (2名) 救護用テントとストレッチャーの搬出</p> <p>○救助班 (自立活動室) は、学級担任到着後、AED とストレッチャーを救護場所に届けて、本部に集合する。</p> <p>○寄宿舎指導員：AED を養護教諭に届けた後、本部前に集合。本部の指示に従う。</p>

		<p>○安全・防護係（〇〇、〇〇） 電気・ガス等の設備の安全確認を行う。</p> <p>○事務部：エレベーター内の確認</p> <p>○各担当者は、情報を本部（教頭）に報告する。 * 報告の形式は別紙</p> <p>* その他の教職員は、連携しながら各自の役割を果たす。（消防計画書P 1 1 参照）</p> <p>○消火係：消火について本部に報告</p>
<p>0：10 安否確認の 指示</p> <p>負傷者あり</p> <p>救助活動の 指示</p> <p>救助活動の 完了</p> <p>安否確認の 完了</p> <p>0：25 避難完了</p>	<p>情報収集・状況把握 教頭 「各部の安否状況を報告してください」（繰り返し）</p> <p>負傷者がいる学級 「誰か来てください。 負傷者です。 ○学部○学年○組 ○〇さん （頭部）にけがをしています。 （軽傷）のようです」</p> <p>教頭 「救助係の〇〇先生と〇〇先生 は救護場所へ搬送してください。負傷者は○学部○学年○組 〇〇さん（頭部）にけがをして います。（軽傷）のようです」</p> <p>状況掌握 ・児童生徒、全職員の安否確認 ・教頭→校長へ報告</p> <p>・消防隊到着</p> <p>緊急放送4 「火災は鎮火しました。児童生徒 の安全を確認しました。」</p>	<p>○児童生徒・教職員の安全確認、体調観察</p> <p>○安否確認の報告 * 報告の形式は別紙 授業担当者→部主事→教頭 部主事は名簿に記入して提出</p> <p>○負傷者のいる学級：援助依頼 学級→連絡係→部主事→林教頭</p> <p>○救助班：救助活動に向かう。 救助終了後、本部に報告。 すべての救助活動終了後、救護班の 補助をする。</p> <p>○救護班：応急処置を行う。 傷病者について本部に報告する。</p> <p>○警備係：消防車の誘導</p>
講評	学校防災アドバイザー 高松市南消防署員	○密にならないように前後左右の間隔をあけて集合する。
謝辞	校長より	
解散	教頭 「これで避難訓練を終わります。 先生の指示に従って、通常の学習 に戻ってください。」	○各教室に移動

学校（園）名	観音寺市立一ノ谷小学校
派遣内容	地震を想定した避難訓練や危機管理マニュアル等への指導・助言
日時	令和4年11月2日（水）13：00～14：30
場所	観音寺市立一ノ谷小学校
参加者	児童 230名 教職員 26名 アドバイザー 4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	13：00～ 避難訓練の実施及びアドバイザーからの講評 13：30～ 避難訓練及び危機管理マニュアルについての指導・助言

1 取組における成果

【事前活動】

- ① 全校集会で、地震が起きた場合の避難行動について事前学習を行った。ハザードマップを示しながら観音寺市の南海トラフ地震の際の揺れの様子や様々な場所における安全行動や避難方法について知らせることで、防災への心構えや実践意欲が高まった。
- ② 学年団集会において、より具体的に指導し、各教室からの避難経路の確認を行った。
- ③ 職員会で地震を想定した避難方法について、避難訓練計画や危機管理マニュアルをもとに共通理解を図った。避難時及び避難後の各職員の役割や、特別支援学級の児童や保健室在室児童等への配慮事項について具体的に確認することができた。

【中心活動】

① 避難訓練の実施及び指導・助言

地震発生時の安全行動における教師の役割や児童への指示、安全な避難場所の設定、実効性のある避難時の安否確認の方法、より安全性を考えた施設管理等について、専門的見地から多くのアドバイスをいただいた。



【避難訓練の様子】

② 危機管理マニュアルについての指導・助言

危機管理マニュアルの内容を職員間で共有し、マニュアルに沿って行動できるように訓練しておくこと、マニュアルは例の一つなので代案を複数もっておくこと等を助言いただいた。

アドバイザーからの指導・助言により、危機管理や防災教育の見直しを図ることができた。



【アドバイザーの方からの講話】

【事後活動】

- ① アドバイザーからの講話をもとに、各学級で避難訓練について振り返った。
- ② アドバイザーからの指導・助言内容について職員間で共有し、避難訓練計画の見直しや施設内の安全確保のための改良を行った。

2 今後の課題

- ・ いざというときに適切な行動がとれるように、集団行動の在り方や安全指導等について、日常的に指導を継続して行う。
- ・ 校内環境を見直し、転倒や落下のおそれがあるものについて、安全対策を図る。
- ・ 危機管理マニュアルの見直しを行い、全職員で共通理解を図るとともに、必要のある内容については保護者とも共有しておく。

_____は実施後、修正した箇所

令和4年度「香川県シェイクアウト」(県民いっせい地震防災行動訓練) 実施計画

1 日時 ① シェイクアウト+避難訓練

令和4年11月 2日(水) 13:05~13:30 (雨天時は体育館に避難)

※ 5校時のそれぞれの学習場所で、シェイクアウト+運動場へ避難

(例) 体育館から運動場へ、特支学級から運動場へ、特別教室から運動場へ
専科授業の場合は、専科教員が引率避難し、担任へ運動場で引き渡し

② 防災学習

令和4年10月25日(火) 1校時 8:25~9:00

※ 南海トラフ地震、地震が起こった時の行動(学校・家・外で居る場合)

2 内容

- (1) 南海トラフを震源とする大規模な地震発生(震度6~7)を想定。揺れ初めの安全行動をとり(シェイクアウト訓練)、安全な避難経路を考えて運動場(または体育館)へ避難(プラスワン訓練)する。
- (2) 防災の話を聞いて、集団行動や訓練の大切さについて学ぶ。

「訓練の心得」 おさない・すばやく・しずかに・もどらない

3 地震の想定と行動手順

(1) 地震発生

緊急放送Ⅰ チャイム後 … 13:05

◎ 「訓練用の緊急地震速報の音声を放送。」

座布団(あれば)をかぶり、それぞれの場所で約1分間、安全行動1-2-3を実施する。
必ず頭から机の下にもぐり、机の脚をしっかりと掴んでおく。

「安全行動1-2-3」 1まず低く 2頭を守り 3動かない

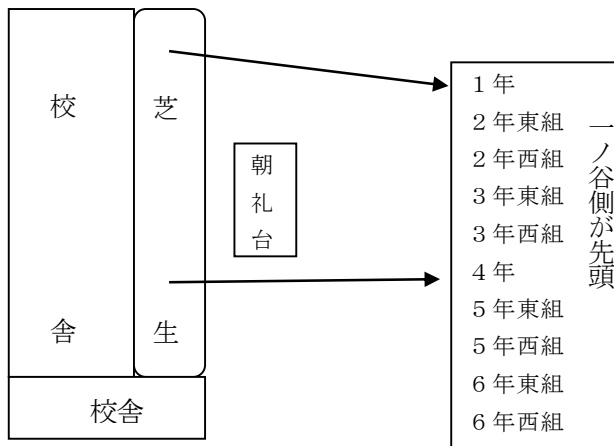
緊急放送Ⅱ 13:07

◎ 「訓練放送、訓練放送、地震の揺れがおさまりました。全員運動場に避難します。ガラスや落下物に気を付けます。」 (雨天時：体育館)

(2) 避難の行動手順

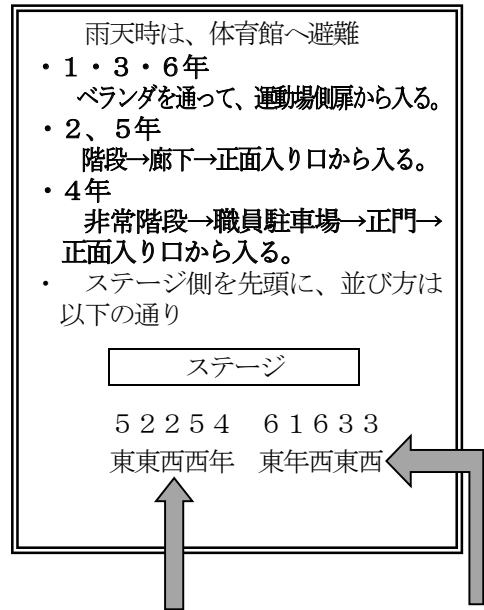
- 1 学年団集会の時間等に、避難訓練の趣旨と手順について指導しておく。
(心得、避難経路、避難場所、集合隊形等) (「安全行動1-2-3」について)
- 2 13:05に「訓練用の緊急地震速報の音声」の全校放送を聞く。
- 3 「揺れがおさまりました。」という合図の放送を聞いて、ざぶとんを被ったまま運動場中央に避難。
「お・す・し・も」の合言葉 時間は計らない。
- 4 運動場に出たら、駆け足で避難し、静かに整列し、座って待たせる。
(並び方を事前に指導しておく。)
- 5 学級担任は、救急箱(非常持ち出し)を持って出る。 ベルトを付けて肩に提げ、両手が使えるようにしておく。
(事前に、救急箱に児童の名簿と緊急連絡先一覧を入れておく。)
- 6 学級担任は児童の人数確認、学年主任は学年団職員の人数確認をして、ボードに記入。教頭は避難状況を確認する。
救助の必要があれば、校長の指示のもと、複数で救助に向かう。
情報収集班は、状況にもよるが、職員室にもどり情報収集に当たる。
(まずは、特別支援学級の担任が、児童の安全の確認後、児童を交流学級の担任に任せ、職員室へ)
- 7 職員室にいる職員は児童緊急連絡簿等のかごを、養護教諭は救急用具を、教頭は拡声器と防災倉庫の鍵を持って避難する。
- 8 全員がそろったのを確認し、次の行動を説明する。
 - ① 特に被害が無ければ、教室に戻って通常通り。
 - ② 一ノ谷池が決壊するか、する見込みの時は、屋上に2次避難をする。
 - ③ 揺れが大きく(震度4以上)学校や通学路などに被害があれば、体育館で待機。
保護者への引き渡しをミッターメールで知らせる。

(2) 避難の行動手順



※避難経路に近い方に並ぶ。
学級の場所は変わってもよい

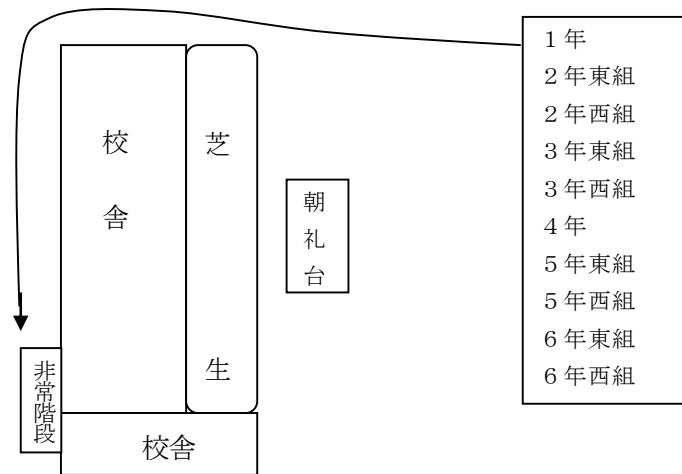
※ 避難経路に妨げとなる物がないか確認しておく。



※ 上靴のまま避難させ、訓練終了後靴の裏の土をよく拭き取らせる。(各組で雑巾の準備)

(4) 屋上へ2次避難の場合

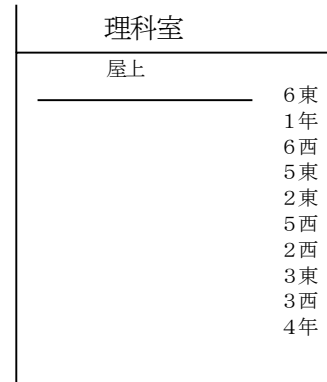
※ 今回は児童への説明のみ行う



※ 非常階段等の経路の安全確認

※ 6年生は1年生を連れて
(5年生は2年生を連れて)
2列で、非常階段を使って
屋上に避難する。

※ 他は学年順



(5) 講評

- ・ 校長先生より
- ・ 学校防災アドバイザーより

学校（園）名	学校法人 高松聖母被昇天学院 マリア幼稚園
派遣内容	実践的な内容で実効性のある避難訓練等への助言
日時	9月 8日（木）10：00～11：00 11月25日（金）10：00～11：00
場所	マリア幼稚園
参加者	教職員3名 園児64名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	10：15～10：30 避難訓練 10：30～10：45 年長児へのお話 10：45～11：00 教職員と防災アドバイザーとの話し合い

1 取組における成果

【事前活動】

- 災害対応マニュアルや避難訓練計画を策定しておき、職員に配付しておいた。
- 担当者で打合せしておき、当日の研修の進め方 について共通理解を図った。
- 第1回の訓練等についての助言を終えて、ホールにあるスピーカーを固定したり、会議用机が倒れないようにチェーンを付けたりした。

【中心活動】

- 各クラスでの朝の活動時間に放送を流し、園庭の方に逃げる。子どもには、速やかに防災頭巾を被らせ、担任は子どもの点呼後、園長に報告をする。
- 年長児は、ホールに集まり、防災アドバイザーの方のお話を聞いた。

その後、教職員と防災アドバイザーとの話し合いを行った。災害対応マニュアルや避難訓練計画の改善点 について、資料を基にしながら詳しく説明していただいた。



【避難訓練の様子】

【事後活動】

- 避難訓練後、指導内容を教職員に伝え、共通理解を図った。
- 危機管理マニュアルの見直しを行った。

2 今後の課題

- 災害時対応マニュアルや避難訓練の見直しは進んでいるが、実際に訓練することを通して、より実践的なマニュアルや訓練に改善していかなければならない。
 - ・ 地震の効果音を流し、揺れている想定での避難訓練を行う。
 - ・ 避難場所「桜井高校」への経路を歩く。
 - ・ 給食中、園外保育時にも避難訓練を行う
 - ・ 裸足の子どもは、上靴を履くように伝える。

学校（園）名	観音寺市立大野原中学校
派遣内容	様々な想定や地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和4年11月28日（月） 11：00～13：00
場所	観音寺市立大野原中学校 運動場、各教室、校長室
参加者	児童258名 教職員30名 観音寺市教育委員会 1名 観音寺市立大野原小学校教頭 1名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	11：00～11：30 アドバイザーに避難訓練内容を事前説明 11：30～12：20 避難訓練 オンラインによる防災教育（香川大学の先生から） 12：30～13：00 災害時の対応について協議

1 取組における成果

【事前活動】

- 昨年から引き続き、避難訓練の計画段階から学校担当者と事業担当者（香川大学）が相談し、より実践的な避難訓練をめざし、生徒とともに計画・実施することを決定した。
2週間前…生徒会に計画・立案を依頼し、今年度新しく3点を追加した。
 - ① 火災報知器を鳴らし、防火シャッターを（手で）おろす。（業者に事前指導と当日指導を依頼した。学校周辺に火災報知器が鳴ることを事前周知した。）
 - ② 今年度は授業教室へ移動し、そこから避難訓練。また、負傷者・行方不明者の対応を求める。（昨年度の反省から、教員が負傷し生徒の協力を得て避難するケースを設定した。）
 - ③ 養護教諭が避難途中に負傷し、避難できない。その後も手当等ができない。
- 成果

- ① 事前周知により、生徒と教職員ともに避難行動や経路について確認する姿が見られた。特に、今年度本校へ異動してきた教員を中心に、事前に防火扉・防火シャッター等の位置や避難経路を確認していた。
- ② 授業教室から避難訓練を実施したため、各教科内で危険な物や留意することを確認の様子が見られた。具体的には、体育科が体育館内での避難場所や理科の薬品庫について確認していた。



【計画・立案する生徒会役員の様子】

- 昨年度から継続した5点は、次のとおりである。
 - ア 出火場所は、各階(1F 技術室、2F 第1理科室、3F 第3理科室)のいずれかとし選択型で実施。
 - イ 地震による建物の倒壊(避難経路に障害物を設置する)や防火扉を閉める。
 - ウ オンラインを活用した防災教育の実施
 - エ 1週間前から、給食時の放送で全校生に周知し、避難経路等の確認を促す。
 - オ 当日の朝、担任の先生から避難訓練の再周知と避難経路等の確認をする。

【中心活動】

- ①校長、教頭が、火災報知器の音の止め方や消火ポンプの停止作業を確認した。
また訓練日の放課後、教頭から複数の男性教員に対し、火災報知器の音の止め方について伝達し、共通理解を図った。
- ②負傷者・行方不明者は、次のとおりで、主に生徒会役員が担った。

クラス 場所	3-2 教室	3-3 教室	2-1 教室	2-2 美術室	2-3 教室	1-2 教室	1-3 音楽室
負傷者	車いす (歩行不可)	人形→運搬 (歩行不可)	体調不良 (歩行可)	避難後 体調不良			
行方 不明者	3-2と3-3の授業者(教員)が負傷。 3-2車いす、3-3担架で避難する際、生徒が協力した。				1階トイレ	下駄箱	用務員室

教員が負傷し生徒の協力を得て避難するケースを2つ設定し、ともに生徒の協力を得ながら安全に避難することはできた。

行方不明者は、昨年からの継続実施のため、捜索時に男女ペアでトランシーバーを持参して行うなど、昨年度の反省を生かした行動ができた。

- ③(養護教諭が負傷し、避難できない。その後も手当等ができない。)が、今回最も良い訓練となった。昨年度の反省に「教職員の人員確認」があり、今年度実施した経緯がある。今年度、学年主任が「生徒の人員確認」した時点で管理職へ報告に来たため、「教職員の人員確認」を依頼し、初めて養護教諭の不在に気がついた。学年団に関係なく捜索し、無事に避難することができた。

また、養護教諭の負傷という設定に伴い、「負傷者への手当が十分に行えなかった」「救護を養護教諭のみに任せすぎていた」という課題が残り、次につながる良い訓練となった。

- コロナ感染症対策も鑑み、オンラインを活用した防災教育を香川大学の先生に依頼した。

当日の訓練の様子に加え、「大野原地区のハザードマップの提示」「登下校時の危険か所」「家庭での備え」「家でいる時の災害対応」など、ハザードマップや実際の写真を活用するオンライン講話は、生徒に切実感のある問いを投げかけることができ、有意義であった。



【負傷した教員を生徒が搬送する様子】



【負傷した養護教諭を教員が搬送する様子】



【オンラインによる防災教育の様子】

【事後活動】

- ①に関して地震による火災という設定だが、消火班で現場に急行した教職員が1名と少なすぎたこと、「火事だ」と大きな声で周囲への伝達ができなかったことなど、アドバイザーからの指導すべてを職員会議で共有し、全教職員で共通理解を図った。
- ③に関して、反省及び今後養護教諭が不在時の対応を踏まえ、市教委を通じてスポーツ振興センターに依頼し、スポーツ事故ハンドブック2種類（対応・防止）を提供していただき、教職員に配付した。また養護教諭は、各部活動が持つ救護セットを確認するとともに、ハンドブック2種類も一緒に保管するよう依頼した。
- 校長は、学校だよりに避難訓練の様子を掲載し、保護者に災害時の約束事を子どもと話し合っ
て決める大切さなどを伝え、学校・家庭・地域の防災意識の向上を促した。
- 校区内の小学校（教頭）と今回の避難訓練で気がついたこと、発達段階に応じた防災教育のあり方等を話し合うとともに、より一層小中連携を図ることを確認した。

2 今後の課題

- ②教員が負傷した際、生徒の協力を得るかについて、意見が分かれた。
在校時であれば教職員もいることが予想されるが、家庭や地域の中で中学生となると力を求められる場面も予想される。そのため、中学生には今回のような避難訓練において事前に訓練を体験するなど、経験の積み重ねが求められるのではないかと考える。今回であれば、車いすによる避難時、「段差時はゆっくりと後方へさがりながら、『さがりますよ』と声をかける」という操作が、大変心配であった。総合学習の授業等では既習しており普段ならできるのだろうが、有事でも落ち着いてできるか。また、車いす・担架による避難した負傷者2人ともに、だれも寄り添う生徒も教職員はいなかったが、負傷者や行方不明者等への対応として、最低1名は付き添いたいと考える。
このような場面等において、中学生の力を借りるかどうか、共通理解が図られてほしい。
- 教職員は、「訓練」という意識が根強くあり、「教職員の人員確認」を依頼した際、明らかに困惑しており、いかに現実に近づけた訓練を実施できるか。
- 去年今年と2年間同じアドバイザーから継続指導いただいていることから、2点提案があった。
1点目…消火器による初期消火活動だが、消火ポンプを活用した消火活動はできるか。
2点目…放送設備が使えない場合、どのように避難するか。
(南海トラフ地震は最大100秒と言われており、停電が予想される。)
避難訓練は、必ずしも成功する必要はなく、次の課題が見つければよいという発想に転換する。



【防火扉と障害物の中、避難する様子】



【全校生徒に呼びかける生徒会長の様子】

II

各学校（園）の取組み

- 3 防災マップ作りや災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言

学校（園）名	さぬき市立寒川小学校
派遣内容	南海トラフ巨大地震の発生メカニズムや想定される被害について
日時	6月22日（水）10：20～12：00
場所	さぬき市立寒川小学校 理科室
参加者	5年1組21名、5年2組21名、教員2名 アドバイザー（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	10：20～11：05 5年1組授業実施 11：15～12：00 5年2組授業実施

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 南海トラフ地震について調べ、疑問を持った上で本事業を受講した。

【中心活動】

- ・ PowerPointを使って、南海トラフ地震のメカニズムや想定される震度、被害について説明していただいた。
- ・ その後、東日本大震災や阪神淡路大震災が発生した際の映像を見て、震度について教えていただいた。児童も実際の映像を見て、災害発生時に自分たちがどのように動かないといけないかという課題意識を強くもつことができた。
- ・ また、自助・共助・公助の話や自分たちに何ができるのかという課題を投げかけていただき、今後の新たな学習課題を作ることに繋がった。

【事後活動】

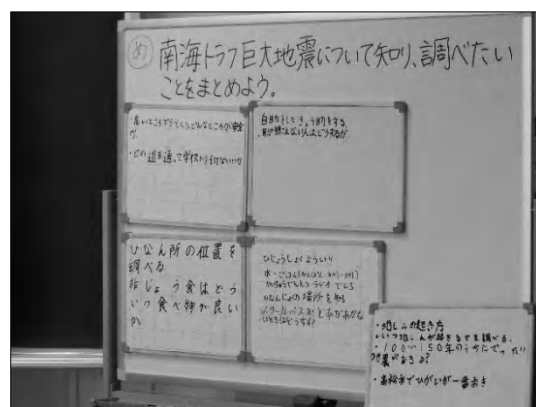
- ・ 授業後の振り返りでは、寒川町には多くの高齢者がいるので、共助が重要だと気づき、今後の学習課題として取り組むことに決めた。
- ・ 寒川地区の防災ハザードマップに自分たちの家や避難場所を記録して災害時の避難の仕方を考えたり、防災リュックの中身についてまとめたりする活動を行って、課題意識を高めた。

2 今後の課題

- ・ 特に助けが必要となる高齢者や障がい者を手助けする方法について、避難訓練をしながら考えていくことになった。



【授業の様子】



【本時の振り返り】

学校（園）名	さぬき市立寒川小学校		
派遣内容	南海トラフ巨大地震の発生メカニズムや想定される被害について		
日時	10月21日（金）10：20～12：10		
場所	さぬき市立寒川小学校		
参加者	5年1組21名、5年2組21名、教員2名 さぬき市社会福祉協議会1名 アドバイザー 4名（香川大学 1名、防災士会 3名）		
内容・日程等	10：20～11：05	5年1組	避難訓練・講評
	11：15～12：00	5年2組	避難訓練・講評

1 取組における成果

【事前活動】

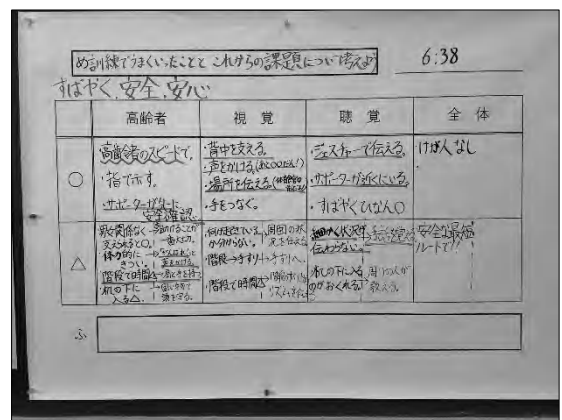
- ・ 前回の派遣後に学習課題となったことについて考えるために、高齢者や視覚障がい者の疑似体験を行って課題意識を高めたり、具体的な支援策を考えたりした。
- ・ 聴覚障がい者を支援するために、手話教室を実施してもらい、防災に関する手話や支援の仕方について学習した。
- ・ 児童がグループで考えた支援策を用いて、校内で実際に避難訓練を行った。その際、より実践的な状況づくりができるよう、一方のクラスがもう一方のクラスの避難訓練をサポートした。
- ・ 避難経路にも割れたガラス片をイメージした新聞紙を置いたり、通行止めを作ったりして状況に応じた支援が必要とされる場面の中で避難訓練を実施し、経験をもとに振り返りと改善策を話し合った。



【南海トラフ地震後を想定した廊下】



【手話教室の様子】



【疑似体験・避難訓練から見つけた支援策の情報共有】

【中心活動】

- ・ 改善策について学級内で確認し、南海トラフ地震を想定した避難訓練を実施した。
- ・ 防災アドバイザーに訓練の様子を見てもらい、避難の仕方や支援策に対して、具体的なアドバイスをいただいた。
- ・ どんな人を支援するときも、多人数で対応することで、支援者の一人一人の負担を減らすとともに、安全を確保できるとアドバイスをいただいた。
- ・ 再度、まずは自分の命を守ることの大切さについてお話をいただいた。



【避難訓練の様子】

【事後活動】

- ・ 授業後の振り返りから、支援策をさらに改善して、支援者を2人以上にして対応することにした。
- ・ 学習したことを全校生や地域に伝えていきたいと考えるようになり、学習発表会や校内の避難訓練で防災について発表した。



【訓練後のアドバイス】

2 今後の課題

- ・ 個人での学びを深めるために、3学期には新聞に自分の学びをまとめ、変容を感じ取ることができるようにする。
- ・ 小学校と防災関係者との連携の在り方について柔軟な発想で、校内で議論していく必要がある。
- ・ 保護者を中心に地域の方へ情報を発信、共有し、地域全体で防災意識を高めていく必要がある。



【学習発表会の様子】

学校（園）名	高松市立大野小学校
派遣内容	防災学習等への助言
日時	令和4年9月15日
場所	高松市立大野小学校 教室 校長室
参加者	児童69名、教職員2名、保護者65名 アドバイザー 3名（香川大学 1名、防災士会 2名）
内容・日程等	8:30～10:10 防災学習参観 10:30～11:10 協議

1 取組における成果

【事前活動】

7月20日・・・打ち合わせ

9月（2回）・・・打ち合わせ

【中心活動】

1校時

- 1 今日の防災学習の流れについて
 - ・地域担当者の自己紹介
- 2 通学路の危険箇所について
 - ・児童が見つけた危険箇所を発表する。
 - ・発表した危険箇所を黒板に箇条書きにする。
- 3 まとめ
 - ・危険箇所の説明
 - ・避難場所について
 - ・公衆電話の使用
- 4 児童の感想発表



【通学路の危険箇所について】

2校時

- 1 防災グッズ作り
 - ・新聞紙で子供用スリッパを作る。
- 2 防災クイズ
- 3 総評



【防災グッズ作り(新聞紙スリッパ)】

【事後活動】

- ・防災学習で学んだことを家庭で話し合う。
- ・生活科で危険箇所を再度確認する。

2 今後の課題

- ・危機管理マニュアルを修正する。

学校（園）名	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップをもとにした地域点検
日時	令和4年9月20日（火）13：40～15：20
場所	坂出市立東部小学校体育館 東部小学校区
参加者	児童51名 教職員4名 東部地区自主防災組織 15名 坂出警察署 2名 アドバイザー 4名（香川大学 2名、防災士会 2名）
内容・日程等	13：30～13：40 自己紹介、予定の確認（体育館） 13：40～15：00 4コースに分かれて校区内の探訪 15：00～15：20 調べてきたことの発表 防災アドバイザーへの質問・今後のアドバイス

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ これまでの4年生が作成してきた防災マップを参考にして、どのコースを歩いて調べるか、どのようなもの（こと）を調べてくるか、グループごとに話し合った。
- ・ グループで役割（リーダー、カメラ、メモ、インタビュー）を決め、協力して、調べ活動に参加することを確認した。
- ・ 調べる内容
 - ① 危険な所（赤）
地震で倒壊しそう、津波で浸水しそう、空き家、人通りが少ない、用水路、溝 等
 - ② 安全な所（青）
避難場所、公共施設、高い建物、休憩所、子ども SOS、AED、消防署・消防団、火災受信機、防犯カメラ、SOS ボタン 等
 - ③ 防災施設・設備（緑）
海拔表示（水深○m）、防火水槽、消火栓、標識、防火倉庫、防災ベンチ、かまどベンチ、災害用トイレ、公衆電話、災害時救済対応機、緊急飲料水 等

【中心活動】

- ・ 4コースに分かれ、グループごとに校区内の様子を見て歩いた。事前に調べておいた上記の内容（赤・青・緑）を確認したり、新しく発見したことをカメラやメモに記録したりしていった。
- ・ 防災アドバイザーや地区自主防災組織の方から、施設や設備について説明してもらったり、実際に触れたりすることができた。
- ・ 地域を探索してきたことをグループで振り返り、分かったことや調べたいこと、新しい課題等について話し合った。
- ・ 各グループの代表が話し合ったことを発表し、防災アドバイザーから今後の学習について、アドバイスをいただいた。

【事後活動】

- ・ 今日調べた施設や設備が、「なぜ、そこにあるのか」、「その目的は何なのか」、「そのおかげで、どんなよいことがあるのか」など、その意味について、さらに調べたり、考えたりすることが大切である。
- ・ これまでの災害の影響と施設等がつくられた経緯等を比べてみると、市や地域における防災活動の方向性が明らかになってくるかもしれない。
- ・ 市の防災担当の方や地域の自主防災組織の方に話を聞き、市や地域の取組をまとめることで、「公助・共助・自助」を整理し、自分たちにできることが学ぶことができる。

2 今後の課題

- ・ 今回の地域探索の内容をまとめ、これからの活動について話し合い、計画を立てる。
- ・ 調べて分からなかったことや、さらに知りたいことについて、地域の自主防災組織の方から、話を聞き、次の学習の課題について考える。



【かまどベンチの使い方を教わる】



【実際に消火栓を使ってみる】



【調べて分かったことをまとめる】



【グループごとに発表する】

学校（園）名	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップをもとにした地域点検
日時	令和4年10月17日（月）13：50～15：20
場所	坂出市立東部小学校体育館 東部小学校区
参加者	児童51名 教職員4名 東部地区自主防災組織 15名、坂出警察署 2名 アドバイザー 3名（香川大学 2名、防災士会 1名）
内容・日程等	13：30～13：40 予定の確認（体育館） 13：40～15：10 4グループに分かれて防災施設の見学・体験 15：10～15：20 調べてきたことの発表 防災アドバイザーへの質問・今後のアドバイス

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 前回、グループごとに歩いて調べた内容から、防災施設を見学したり、実際に体験したりしたいという意見が多く聞かれた。そこで、その中でも特に希望が多かった3つの施設（設備）「防災かまど、防災ベンチ、市防災倉庫」を見学することとなった。
- ・ 施設訪問をする際に、その施設について、特に自分が知りたいことや体験したいことをまとめておき、市や地域の担当の方に尋ねる内容まで、具体的に話し合った。
- ・ 上記の3つの施設（設備）以外にも、自分が知りたいことがある場合は、施設訪問の合間に、市や地域の担当の方に、インタビューができるように、事前に内容を決めた。
- ・ グループで役割（リーダー、カメラ、メモ、インタビュー）を決め、協力して、調べ活動に参加することを確認した。

【中心活動】

- ・ 各施設（設備）に訪問する時間をずらして、4グループに分かれて、校区内を探索した。調べたい内容を中心に、発見したことをカメラやメモに記録していった。
- ・ 市の危機管理課の方や地区自主防災組織の方から、施設や設備について説明してもらい、可能な限り、見学したり、実際に体験したりすることができた。
- ・ グループごとに、施設訪問してきたことを振り返り、分かったことや調べたいこと、新しい課題等について話し合った。
- ・ 各グループの代表が話し合ったことを発表し、防災アドバイザーから今後の学習について、アドバイスをいただいた。



【防災かまどでお湯を沸かす】



【布担架で人を運ぶ】



【防災倉庫の説明を聞く】



【防災ベンチの説明を聞く】

【事後活動】

- ・ 新しく知ったことがたくさんあるが、自分一人のできることでできないことがある。自分でできなくても、誰かと協力すれば、できることも必ず見つかるので、どんなことができるか、考えてみる大切である。
- ・ 市や地域では、災害に備えて食料や飲料水、毛布等を備蓄しているが、まずは各家庭で非常食等を準備しておくことが大切である。今日、学んだことを家の人に伝え、家庭でも防災について考えていくことが必要である。
- ・ 今までの4年生が調べてなかったことを新たに知ることができた。ここで学習したことを、次の4年生にも伝えていくことが、東部小学校のよき伝統となる。

2 今後の課題

- ・ 実際に体験したことをもとに、防災施設や設備のすばらしさや、災害に備えて、備蓄等の準備をしておくことの重要性を全校生や家族、地域の方に情報発信する。
- ・ もっと知りたいことについて、市の担当の方や地域の自主防災組織の方から、話を聞き、まとめていく。

学校（園）名	高松市立古高松南小学校
派遣内容	学校、家庭、地域合同防災学習
日時	令和4年9月22日（木）
場所	古高松南小学校
参加者	小学校3名、PTA会長、技術士2名、防災士3名、古高松地区自主防災連合会4名、東消防署2名
内容・日程等	10:00～12:00 古高松南地区学校・家庭・地域をつなげる地域合同防災学習の振り返り

1 取組における成果

【事前活動】

本校区は、新川・春日川が流れ、海に近い土地の低い地域と、山や池もある自然災害が起こりやすい地域に立地している。水害等については地区の防災組織が中心となって毎年のように防災訓練をする熱心な地域である。そこで、学校での防災訓練に地域の教育力を活用し、いざという時に備え、「自分の命は自分で守る」「困ったときは助け合う共助」を実践できる人づくりを進めていきたいと考える。そのために、地域合同防災学習の計画を古高松地区コミュニティ協議会や地域の自主防災組織と共同して計画を立て、実践化へとつなげていく。

令和3年度の学校防災アドバイザーとの会議で、地域の方とも話をする事ができた。その後、地域の方と、地域と合同の防災訓練参観の準備を進め、令和4年9月10日（土）に防災学習を行った。

【中心活動】

- ① 学校からの話
 - ・当日の流れのまとめと、成果と課題
- ② 地域の方からの話
- ③ 消防署の方からの話
- ④ 防災アドバイザーからの提案
 - ・学校危機管理マニュアルについて
 - ・避難の方法 校区の歴史



【会議の様子】

【事後活動】

- ・ 地域の方と来年度の方向性を話し合った。
(今後、毎年9月の2週目の土曜の方向で話を進める。)
- ・ 教えていただいた校区の歴史を、来年度の防災学習の授業に組み込む。
- ・ 指導いただいた学校危機管理マニュアルの修正を行う。

2 今後の課題

今年度はコロナ下での開催だったこともあり、地区ごとの防災体験を行うことができなかった。また、保護者と児童が混ざらないようにと、児童優先で体験を行い、保護者は参観するという状況になった。来年度は、コロナ関連の対応が落ち着いたら地区ごとに行い、地域のつながりにも視点をあてたり、保護者と児童が共に体験学習を行ったりすることで、より実践的な活動になるようにしていきたい。



学校だより【防災学習特集号】

古南小の絆

令和4年9月22日
高松市立古高松南小学校

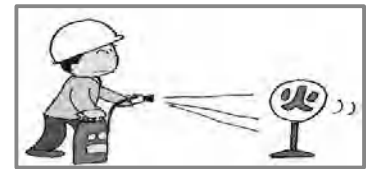
古高松南地区 学校・家庭・地域をつなげる地域合同防災学習

9月10日(土)の学習参観では、本校にとって初めての地域との合同防災学習が行われました。前半は、各学級での防災学習を担当が行い、後半には地域の各種団体の指導の下、9つの防災訓練が実施されました。本校区は、以前より防災訓練の熱心な地域でありましたが、この度は学校教育にもその地域の教育力をお貸しいただきました。

保護者の皆さんの中には、地域の防災訓練に参加されたことがなかった方も多かったようで、この活動が家庭でも防災について話し合うよい機会になったという振り返りもたくさんありました。折りしも翌週末に襲来した台風14号によって、高松市に「高潮氾濫のおそれ」による避難メールが配信され、古高松南コミュニティセンターと古高松小学校が避難所として開設されました。「〇〇の災害の時はどうするか」という家族間の話し合いは本当に大切です。今回の事前アンケートや振り返りシート等を下記に掲載しますので、今後の防災資料としてご活用ください。

1 事前アンケートの集計結果について 「はい」と答えた割合

質問	児童	保護者
1 災害時に避難する場所を家族で話し合っているか。	30%	67%
2 非常持ち出し袋を準備しているか。	31%	45%
3 ハザードマップを家で見たとあるか。	28%	87%



事前にとった防災についての意識調査と、学習参観・防災訓練後の振り返りを比較しながらまとめました。ぜひ、家庭の備えについての参考にしてください。

質問	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	17%	13%	26%	31%	43%	54%
2	21%	28%	31%	38%	43%	43%
3	23%	13%	17%	39%	40%	62%

2 災害がおきた場合の避難場所について

家族と話し合っていると回答した保護者は、67%でした。避難場所については、家庭で話をしている保護者は多いようです。しかしながら、児童は30%で低い割合になっています。また、低学年になるほど、話をしていないという結果になりました。

この結果から、保護者は伝えたと思っていても、子どもは理解していない、忘れていたということがあるのではないかと予想されます。また、実際「はい」と回答した中で、「場所は覚えていない」という児童もいました。

災害時は、電話が繋がりにくくなることが予想されます。家族の安否確認のためにも、避難場所や連絡方法などを今一度、家庭で確認しておきたいものです。

3 非常持ち出し袋について

用意している家庭は45%で、用意していない家庭が多いようです。また、児童は31%で、保護者との割合に差があり、家にある非常持ち出し袋について知らない児童が多いと予想されます。

避難所に行っても、すぐには食料の提供が受けられないこともあります。まずは、家庭で備えをしておきたいものです。また、お子様にも非常持ち出し袋の場所を知らせておくといいですね。

4 ハザードマップを確認している

保護者は87%と非常に高い割合になっています。本校区は、浸水被害が多くなると予想されているので、保護者の方の関心の高さが分かりました。しかし、児童は28%でした。学校では9月に入って、全クラスに春日町と新田町の洪水ハザードマップを配布しました。日頃から防災について意識を高めていきたいと考えています。

<保護者の事前アンケート(自由記述より)>

- ・避難経路は確認していない。避難訓練もしていないし、避難所の運営についても知らない。学校・家庭・地域が一緒にできる今回の防災学習の取組は素晴らしい。

5 学習参観と地域合同防災訓練について

学習参観では、災害時の身の守り方や、備えについての防災学習の授業を行いました。また、地域合同防災訓練では、9つの体験を、多くの団体の方のご協力のおかげで行うことができました。



【低学年 防災学習の様子】



【中学年 防災学習の様子】



【高学年 防災学習の様子】

【協力して下さった団体】

活動内容	担当団体
煙のトンネル・起震車・AED	東 消 防 署
簡易担架づくり 土のうづくり	古高松消防分団
水消火器消火体験 バケツリレー	女性防火クラブ
簡易ベッドづくり	日赤奉仕団
簡易トイレづくり	自主防災会



【AED体験】



【簡易ベッドづくり】



【水消火器消火体験】



【煙のトンネル体験】



【土のうづくり体験】

6 事後の振り返りについて

<児童の振り返りより>

- ・自分にできることを考えていきたいです。
- ・非常持ち出し袋が大事だと分かりました。
- ・地震が起きたら、家の中には危険なものがたくさんあることを、学びました。
- ・自助・共助・公助について考えることができました。
- ・雨が降った時には、川や池、海には近づかない。高いところに避難します。

<保護者の振り返りより>

- ・避難場所や避難ルートを家族でもう一度、しっかり話し合いたいです。
- ・今回の授業をきっかけに、家族で話し合い、対策をたてることができました。
- ・先生の話の聞いたり、実際に体験をしたりしたことで、親も大切なことを学ぶことができました。
- ・実際に災害の時に、落ち着いて実行できると思います。これからもこのような機会があるとありがたいです。
- ・授業で学んだことを、体験で実践にうつすことができ、すばらしいです。
- ・今後も、防災訓練等に積極的に参加したいです。



【バケツリレー】



【簡易担架づくり】



【簡易トイレづくり】



【起震車体験】

児童は、学習や体験を通して、防災への関心を高め、自分の生活の中に取り入れたいという意欲をもつことができました。事後の振り返りを見ると、多くの方が、日頃からの備えの大切さを感じているようです。また、保護者の方も今回の防災に関する授業参観や体験学習を通して改めてご家庭で話すよい機会になったようです。

地震等の自然災害の発生を止めることはできませんが、備えておくことで被害を最小限に抑えることはできます。本校区のハザードマップを活用しながら、いつ災害が起きても「備えは万全」となるように、日頃から家族みんなで話し合っ、備えておきましょう。

学校（園）名	高松市立弦打小学校
派遣内容	災害に備えてできること（自助）についての講話
日時	令和4年9月26日（月） 13：50～15：30
場所	高松市立弦打小学校 体育館
参加者	児童90名 教職員4名 アドバイザー3名（香川大学2名、防災士会1名）
内容・日程等	13：50～14：35 地震や洪水に備えて自分にできることをグループの友達と話し合い、出た意見を発表する。 14：45～15：15 災害に備えてできることについての助言 15：15～15：30 質疑応答

1 取組における成果

【事前活動】

地域のハザードマップを用いて、自分たちの住んでいる地域にはどのような災害が起きる可能性があるのかを確認した。弦打校区は2本の川に挟まれていることから、川の氾濫などの水害が起きる可能性が高いことを理解することができた。

香川県ホームページにある「南海トラフ大地震」についての動画を視聴し、地震によりどのような災害がどの程度起こるのかを学習した。地震によって甚大な被害が出ることを知り、何かできることをしておきたいという意識が芽生えた。

【中心活動】

今後地域に起こりうる災害に備えて、自分たちに何ができるのかをグループの友達と話し合いながら意見をまとめていき、話し合ったことを発表した。これまでの経験から、「ハザードマップを確認しておく。」「防災バッグを用意しておく。」などの意見が出た。

学校防災アドバイザーの方より、「想定外災害から生き残るための心構え」「危機管理能力を高めるためにできること」「災害に備えるためにしておくことよいこと」を教わり、日常生活で実践できることもあるということを理解できた。また、防災バッグを用意したり、マイタイムラインを作ったりして災害に備えたいという意識をもつことができた。



【話し合いの様子】



【アドバイザーの講話】

【事後活動】

学校防災アドバイザーの方から教えていただいたことを基に、防災バッグに何を入れておくことよいかを調べ、家族のことを考えて入れたいものを考え、ワークシートにまとめることができた。

2 今後の課題

防災バッグの中身を考えたものの、実際に用意をしたという家庭はほとんどなかった。各家庭の実態によるが、子どもたちから家庭への発信が必要だと気付くことで、家族とともに命を守るという意識を高め、啓発につなげていきたい。

弦打学習5年 「守りたい 助けたい つながりたい」

月 日

5年（ ）組（ ）



1、防災バッグの中身を選ぶときに考えたこと



2、グループの友達と交流して防災バッグの中身を比べてみよう。
(自分が考えた防災バッグの中身と同じところ・違うところ)



3、グループでの交流を通して気付いたこと・分かったこと。

学校（園）名	高松市立弦打小学校
派遣内容	水害が起きたときの避難の仕方やマイタイムラインについての助言
日時	令和4年11月14日（月）13:50～15:30
場所	高松市立弦打小学校 体育館
参加者	児童90名 教職員4名 弦打地区防災士4名 アドバイザー5名（香川大学2名、防災士会1名、高松气象台2名）
内容・日程等	13:50～14:00 始めのあいさつ 14:00～14:30 過去の水害や避難の仕方についての講話 14:30～14:45 マイタイムラインについての講話 14:50～15:30 各自が作成したマイタイムラインの見直し

1 取組における成果

【事前活動】

地域に起こりやすい水害に備えて、避難の仕方や避難のタイミングなどを考え、各自がマイタイムラインを作成した。ほとんどの児童が避難するタイミングが遅いことから、次時の学習の深まりが予想された。

【中心活動】

高松气象台の方より、平成16年に地域に起きた洪水について紹介いただいた後、避難を開始するタイミングや「キキクル」などについて教えていただいた。避難のタイミングが遅いことに多くの児童が気づき、学習が深まった。

香川大学の先生より、ハザードマップを確認しながらマイタイムラインを作成する方法を教えていただいた。自分の家がどの程度被害を受けるのかを具体的に想定しながら考えられた。

家が近所の子どもたちでグループをつくり、自分が作成したマイタイムラインを一緒に見直し、修正した。その際、学校防災アドバイザーの方々や地域の防災士さんに個別に助言をいただいた。児童は、自分の作成したマイタイムラインでは安全に避難できないかもしれないと考え、自分も含めて家族全員が無事に避難できるようなマイタイムラインを作成することができた。

【事後活動】

作成したマイタイムラインを家庭に持ち帰り、家族と話し合う課題を出すことで、避難所をどこにするか、家族同士の連絡手段など、タイムライン以外のことも家族とともに確認できた。



【助言を受ける様子】



【グループ活動の様子】

2 今後の課題

実際にマイタイムラインが使えるかどうかは現状では確認することは難しい。ただ、作っておくと安心ということには気付くことはできたので、それを広めていくにはどうすればよいのかを今後考えさせていきたい。

学校（園）名	香川県立多度津高等学校
派遣内容	防災講話
日時	令和4年10月7日（金）8：50～9：40
場所	本校・情報処理教室・各ホームルーム
参加者	生徒 約550名 教職員 約80名 クラス数 21 アドバイザー 2名（技術士会 2名）
内容・日程等	8：50～9：40 講話 「南海トラフ地震に備える～減災に向けた土木建築技術」 講師 香川大学創造工学部 客員教授 岩原廣彦 氏 ※ 校内映像放送システムを使って全校生徒・職員へ防災講話を実施

1 取組における成果

【事前活動】

防災・減災では建築物が自身の身を守り、その後の避難生活の大部分を占めるものであるという観点から、今回の講話の内容をお願いした。建築技術が主となるため、関係の深い建築科3年生の生徒を対象に、興味関心がある質問を考えておくように指導した。



【中心活動】

建築科3年生の生徒33名が、情報処理教室にて、講師の先生との対面聴講となった。他のクラスはコロナ対応のため各HR教室でリモート聴講した。講演の後、質疑応答があり、生徒の質問に講師の先生が熱心に回答されていた。また、先生のほうから生徒にも質問されていた。コロナ対応で少人数であるが教育効果があったと感じた。



本校は物づくりの専門高校であり、それを学ぶ生徒に、工学的見地から自分の住む住居、建築物の耐震・減災対策の講義があり、善通寺本山寺五重塔の心柱の耐震効果、東京スカイツリーへの応用など興味深い内容であった。



【事後活動】

学習活動で、防災・減災に関する物づくりの動機付け、また、自身の生活の場面において、今回の内容を家族に紹介し、住環境を見直す機会にしてもらいたい。





2 今後の課題

今回の講話の内容は建築技術が主であったが、時間が50分と短く、建築技術のみでなく土木技術も内容に盛り込めれば、より教育効果が上がるとの講師の先生の意見もあり、機会があれば続編として講話を実施してもらいたい。

学校（園）名	高松市立香西小学校
派遣内容	総合的な学習における防災マップ作りへの助言
日時	第1回 令和4年 9月 9日（金）13：45～15：25 第2回 令和4年11月25日（金）13：45～15：25
場所	高松市立香西小学校 6年各教室・体育館
参加者	6年生児童 89名 教諭3名 防災アドバイザー 3名（技術士会 2名、防災士会 1名）
内容・日程等	第1回 地震や津波のメカニズムについて教えてもらうとともに、防災まち歩きの方法について確認し、今後の活動の見通しをもつ。 第2回 フィールドワークで気付いた事や疑問点についてまとめた内容について指導していただき、地域や全校生に分かりやすい防災マップに掲載するまとめを作成する。

1 取組における成果

【事前活動】

《第1回に向けて》

- 夏休み中に、防災アドバイザーとの顔合わせと9月に行う授業についての打ち合わせを本校で行った。
- 第1回目までに、地震や津波のメカニズムを見童へ知らせる資料の内容の確認を行うとともに、動作確認をするために防災アドバイザーが来校された。

《第2回に向けて》

- 9月20日（火）16時から教員対象にアドバイザーにまち歩きの事前指導をしていただいた。
- 10月11日（火）、11月7日（月）、11月22日（火）に防災まち歩きを行った。1回目、3回目の時にはアドバイザーも同行していただき、ご指導をもらった。
- 第2回目の授業の進め方を岩原先生と電話にて打ち合わせを行った。（2週間前くらい）
- 児童が各班に分かれてまち歩きをした時に撮影した写真を、Teamsでクラス内で共有しておいた。
- PowerPointでまとめの雛形を作成し、Skymemuで見童に配付した。
- 赤（災害時に危険な箇所）黄（災害時に役立つもの）青（災害時に安全な場所）緑（その他）について、どの箇所をまとめるかを分担しておいた。

記号	仮称	シール	記号/仮称		
青○	A	例	1	26	
青○	B	例	2	27	
	広	公園・広場	3	28	
	C	例	4	29	
青○	高	高い所・頑丈な建物	5	30	
			6	31	
	D	例	7	32	
	E	井	防火栓・消火器	8	33
	F	防	防火水龍・井戸・水場	9	34
	G	防	消防備具・防災倉庫	10	35
黄○	SO	SOS等	11	36	
	H	電	公衆電話	12	37
	I	便	公衆便所	13	38
	J	病	病院・薬局	14	39
	K	公	公園・公衆トイレ	15	40
	L	道	狭い道・危険な道	16	41
	M	傾	傾斜・急な斜面	17	42
赤○	N	崖	崩れそうな斜面・崖	18	43
	O	災	過去の被災場所	19	44
	P	電	曲がった電柱	20	45
	水	水	橋の無い水路	21	46
	R	産	産物（お祭り・お祭り）	22	47
	S	木	木柱	23	48
	T	た	ため池	24	49
	緑○	水	用水路	25	50

【まち歩きチェックシート】



【まち歩きの様子】



【まち歩き後に大きな地図にチェックポイントをまとめる】

【中心活動】

《第1回》

5校時… 感染症と熱中症対策のため、6年各教室とPCをTeamsでつなぎ、アドバイザーにはPC室から地震や津波のメカニズムについて講義をしていただいた。講義内容のレジュメを児童に配布し、メモを取りながら聞けるようにしたり、途中で区切りながら質問タイムをとって双方向のやり取りができるようにしたりした。



【授業の様子】

6校時… 体育館に集まって、プロジェクターで資料を提示しながら、まち歩きの方法を説明したり、まち歩きで見る視点について確認したりした。



【授業の様子】

《第2回》

- ・ 分担した箇所について、様子が分かる写真とどのような問題があるのか、なぜ危ないのか（安全なのか）の説明を加えてまとめを作成していく。
- ・ どのようにまとめていけば分からない児童やよくできている児童には、アドバイザーの先生に声かけをしていただいた。
- ・ 授業の終末に、各クラスで分かりやすくまとめられていて、まとめる視点が良い児童のスライドをプロジェクターに映し、紹介する予定だった。（本時は、こちらの動作確認不足で映すことができず、口頭での発表となってしまった。）
- ・ アドバイザーの先生から講評をいただいた。



【授業の様子】

【事後活動】

《第2回目のあと》

- ・ 11月25日（金）にできなかった地図上の残りのチェックポイントについて引き続きまとめを作成した。



【児童のまとめの一部】

2 今後の課題

- ・ 各クラスで大きな地図にまとめているチェックポイントについて、地域ごとに学年で1枚にまとめていき、香西地区の防災に関するチェックポイントがどの程度を網羅できているのかを確認する。（できていない部分については、来年度の6年生に引き継ぐ予定である。）
- ・ HP 上に児童がまとめた説明を掲載し、地域の方に活用していただけるように準備する。
- ・ 全校生がいつでも見られるようにするために、校内に掲示するための大きな防災マップを作成する。
- ・ 6年生の活動を全校に知らせる時間を設ける。

關係資料

令和4年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領

1 趣旨

我が国は、近い将来に発生が懸念されている首都直下地震や南海トラフ巨大地震、激甚化・頻発化する豪雨、台風などの計り知れない自然災害のリスクに直面している。このような中、各学校（園）においては、児童生徒等が生き生きと活動し、安心して学べるようにするためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが重要である。また、児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を継続的に身に付け、自ら進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるようになることが求められる。

そこで、本事業は希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルの見直しや地域や関係課と連携した防災教育、より実効性のある避難訓練等に対する助言を行い、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

2 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する専門家を学校（園）に派遣し、各学校（園）等の要望に応じた助言等を行い、防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図る。

- (1) 派遣期間 令和4年6月20日～令和4年12月27日
- (2) 派遣校（園）等数 公立学校（園）、国立・私立学校（園） 40校（園）程度
- (3) 派遣回数及び時間 各学校（園）等に原則2回まで派遣、1回につき2時間程度
※3回の派遣を希望する場合は要相談（最大3回まで可能）
- (4) 主な派遣講師
 - ・香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員
 - ・香川県防災士会所属防災士
 - ・日本技術士会四国本部・香川県技術士会所属技術士
 - ・高松地方気象台職員
- (5) 主な助言内容
 - ① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
 - ② 様々な想定や地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
 - ③ 防災マップ作りや災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
 - ④ その他（本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談）
- (6) 留意事項
 - ・講師の旅費等はすべて県教育委員会で負担する。
 - ・地域間や学校間における取組を共有し、各学校（園）等の防災体制や防災教育の充実を図る本事業の目的から、以下のア～ウを留意する。
 - ア 隣接する学校（園）や地域の防災関係機関等（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織、教育委員会等）に周知・連絡を事前に行い、事業当日に可能な範囲でオブザーバーとして参加をしていただくこと。
 - イ アドバイザー派遣を希望する活動の事前と事後の取組みの充実を図ること。
 - ウ 事業当日、参加している関係者との情報共有を図ること。

3 事業活用の申請・決定等

(1) 申請について

本事業の活用を希望する学校（園）等は、「【様式1】学校防災アドバイザー活用希望調査」を作成し、令和4年5月17日（火）までに、電子メールで提出する。

※ 活用を希望しない学校（園）も、活用希望の有無を記入し、提出する。

- ・公立幼・小・中・高等学校（園）…所管の市町（学校組合）教育委員会教育長あて
及び関係市町公立幼稚園所管課長あて
- ・県立学校及び国立学校（園）…県教育委員会保健体育課長あて
- ・私立学校（園）…総務学事課長あて

(2) 派遣校（園）等の決定

本事業推進委員会第1回会議（6月上旬）において、派遣校（園）を決定し、各公立幼・小・中・高等学校（園）等は所管の教育委員会を、私立学校（園）は総務学事課を通じて、県立学校及び国立学校（園）は各学校長あてに、文書で通知する。

(3) 派遣決定後の手続き

① 派遣校（園）等は、派遣決定の文書が届いた後、事業実施3週間前までに、以下の3つを直接県教育委員会保健体育課担当に電子メールで提出する。

- ・【様式2】学校防災アドバイザー派遣申請書
- ・【様式3】危機管理マニュアルチェック表
- ・各学校（園）の危機管理マニュアル

※ 危機管理マニュアルについては、PDFでの提出が望ましいが、容量が大きくメール送信できない場合は、紙媒体での提出でも構わない。

② 提出されたものをもとに、本事業担当者から学校担当者へ電話にて打合せを行い、その情報をアドバイザー等に共有する。

4 事業終了後の提出物等

事業がすべて終了後、2週間以内に以下の2つを、直接県教育委員会保健体育課担当に電子メールで提出する。

- ・【様式4】学校防災アドバイザー派遣事業報告書
- ・【様式5】学校防災アドバイザー派遣事業アンケート

※ 報告書は、県教育委員会ホームページ及び事業報告書冊子等での公開予定のため、作成にあたり、個人情報の保護や著作権（作品の掲載、引用等）に十分注意すること。

5 その他

派遣決定後の手続き及び事業終了後の提出物等にかかわる様式（様式2～5）については、派遣校（園）等の決定通知とともに送付する。

本事業の過去の取組みについては、県教育委員会保健体育HPを参照。

「令和3年度学校防災アドバイザー派遣事業報告書」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15173/r3bousaihoukoku.pdf>

※黄色セル部分の記入・選択をお願いします。

学校(園)用

令和4年度学校防災アドバイザー活用希望調査

学校(園)所在地		校種		記載者	
学校(園)名					

1 学校防災アドバイザーの派遣を希望しますか。○を記入してください。

<input type="checkbox"/>	希望しない
<input type="checkbox"/>	希望する

→希望しないを選択した場合は、以下の回答は不要

※希望するを選択した学校はその理由をご記入ください(簡潔に)

--

2 希望する助言内容を選択し、○をしてください。(複数可)

<input type="checkbox"/>	① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
<input type="checkbox"/>	② 様々な想定や地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
<input type="checkbox"/>	③ 防災マップ作りや災害発生時のボランティア活動等、防災教育の充実
<input type="checkbox"/>	④ その他(本事業の趣旨に沿って学校(園)等と相談)

※④を選択した場合は、以下に具体的内容を記入してください

--

3 今年度、何回派遣を希望しますか。※原則2回まで。3回以上の申請は要相談。

<input type="text"/>	回の派遣を希望
----------------------	---------

4 派遣希望日、時間を第1希望から第3希望まで記入してください。

記入例	月日	曜日	月	時間		
	9月12日			9:50	~	11:40
第1希望	月日	曜日		時間	~	
第2希望	月日	曜日		時間	~	
第3希望	月日	曜日		時間	~	

5 その他、質問やご要望等あればご記入ください。

--

香川県教育委員会事務局保健体育課

(様式3)

危機管理マニュアルチェック表

学校(園)名()

貴校(園)の危機管理マニュアルにおいて、以下の項目をチェックしてみましょう。
該当する項目には○をしてください。

	点検項目	チェック○
基本事項	危機管理マニュアルの想定を超えた自体が発生した場合でも、教職員が適切な判断を下せるよう、危機管理の基本方針を記載している。	
	起こりうる様々な危機事象に対する事前、発生時、事後の3段階の対応について、すべて定めている。	
	3段階のうち特に「発生時の対応」は、発生する事象の種類別に、フロー図など簡易的・見やすい形式で整理している。	
	全ての教職員(非常勤を含む)が危機管理マニュアルの内容を確実に理解するための、具体的な方法を定めている。	
	危機管理マニュアルが最新版であることや担当責任者などが一目でわかるよう、表紙に改定時期等を記載している。	
事前	防災に関わる地域の特徴、歴史、被災履歴など、学校を取り巻く自然的・社会的環境の概略を、総合的に整理している。	
	自然災害について、関係機関の公表するハザードマップを基に、想定される被害状況を具体的に整理している。	
	教職員の非常参集について、災害種別の段階的な基準、参集対象者などを具体的に定めている。	
	災害等が発生した際に、その対応に当たるための組織について、設置基準、組織体制及び活動内容と教職員の役割分担を、具体的に定めている。	
	管理職等が不在時の指揮命令系統について、具体的に定めている。	
	校内の情報伝達・共有手段について、災害状況下の停電等を想定して複数の手段(機器)を確保している。	
	学校設置者・市町村など外部関係機関との災害時の相互通信のため、災害状況下の停電・通信途絶を想定して複数の手段(機器)を確保している。	
	様々な事故・災害等を想定し、必要な避難計画を策定している。	
様々な状況を想定し、目的を明確にした避難訓練の計画的な実施について定めている。		
発生時	大雨等が予想される場合の臨時休業や授業打ち切り等について、必要な情報収集体制、判断基準、保護者等への連絡方法を具体的に定めている。	
	児童生徒等の在校中に気象災害等が発生(又は切迫)したときの初期対応について、簡潔・具体的に定めている。	
事後	地震が発生した場合の初期対応(特に一次・二次・三次避難)について、授業中、休憩時間中、登下校中など、様々な場合を想定して、簡潔・具体的に定めている。	
	安否確認実施の判断基準を具体的に定めている。	
	集団下校・引渡し・待機の判断基準、判断者を定めている。	
	集団下校・引渡しの手順、保護者等への連絡方法、教職員間の役割分担について具体的に定めている。	
	学校教育の再開に向けた手順及びその具体的な方法を定めている。	
	市町村等が実施する避難所の開設・運営に対し、学校として支援する範囲、支援体制について定めている。	

